

里
足

八
犬
傳

二

^ 13
3704
2



一
三
四
五
六

安政三年三月廿一日
...
...
...



...
...
...

一七十一編二編

門 へ13
號 3704
卷 2





貞婦
手束



番作
信乃

天塚
番作
出

八子信乃

この世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は...



かこの世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は...

かこの世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は...

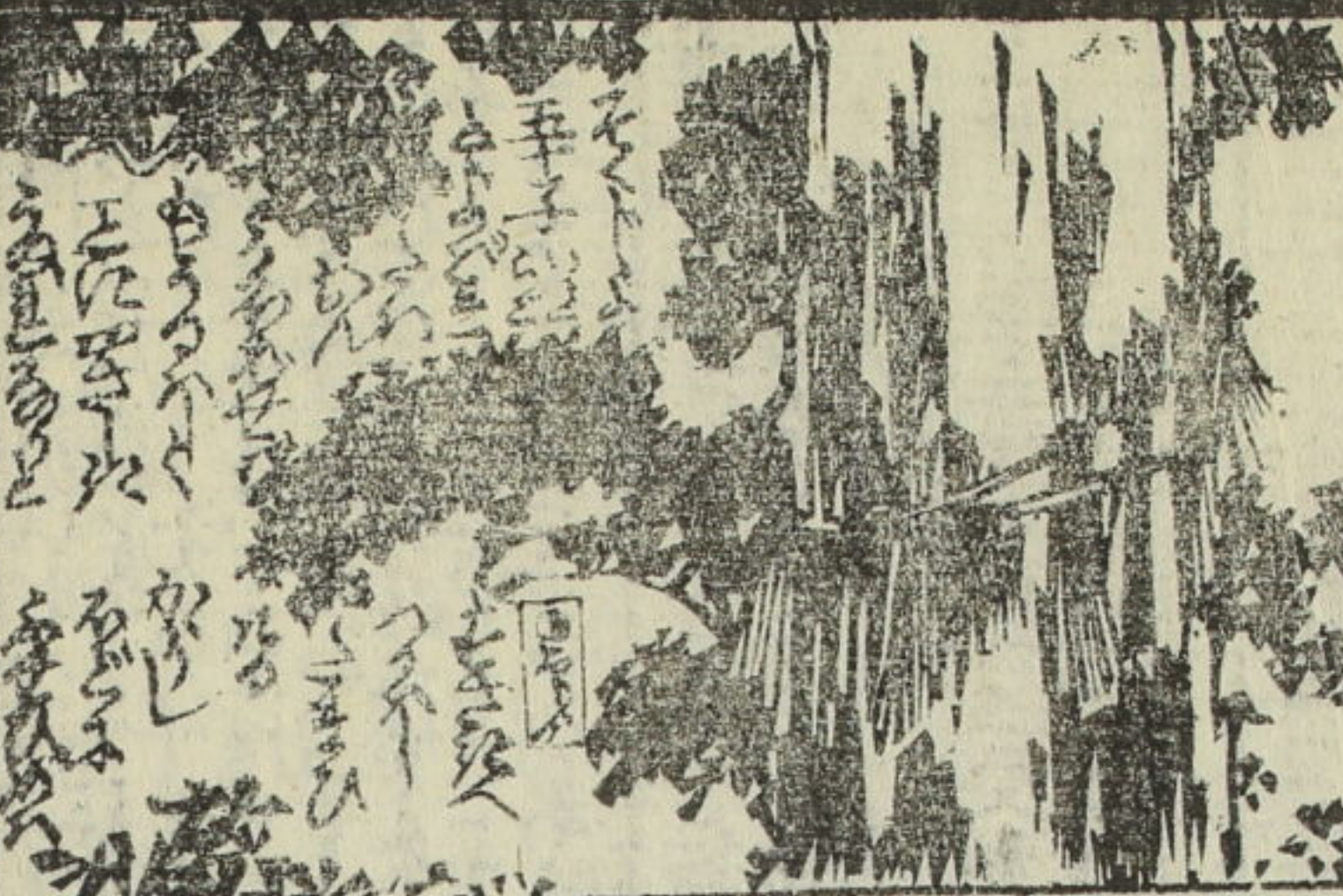


かこの世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は... 人の世の事は...

八犬傳二卷

二

○よしあつたあつたつ
 いかんがせんじよあつた
 いかんがせんじよあつた
 つじし普通をばあつた
 かのあつたあつたあつた
 かのあつたあつたあつた
 かのあつたあつたあつた
 かのあつたあつたあつた
 かのあつたあつたあつた

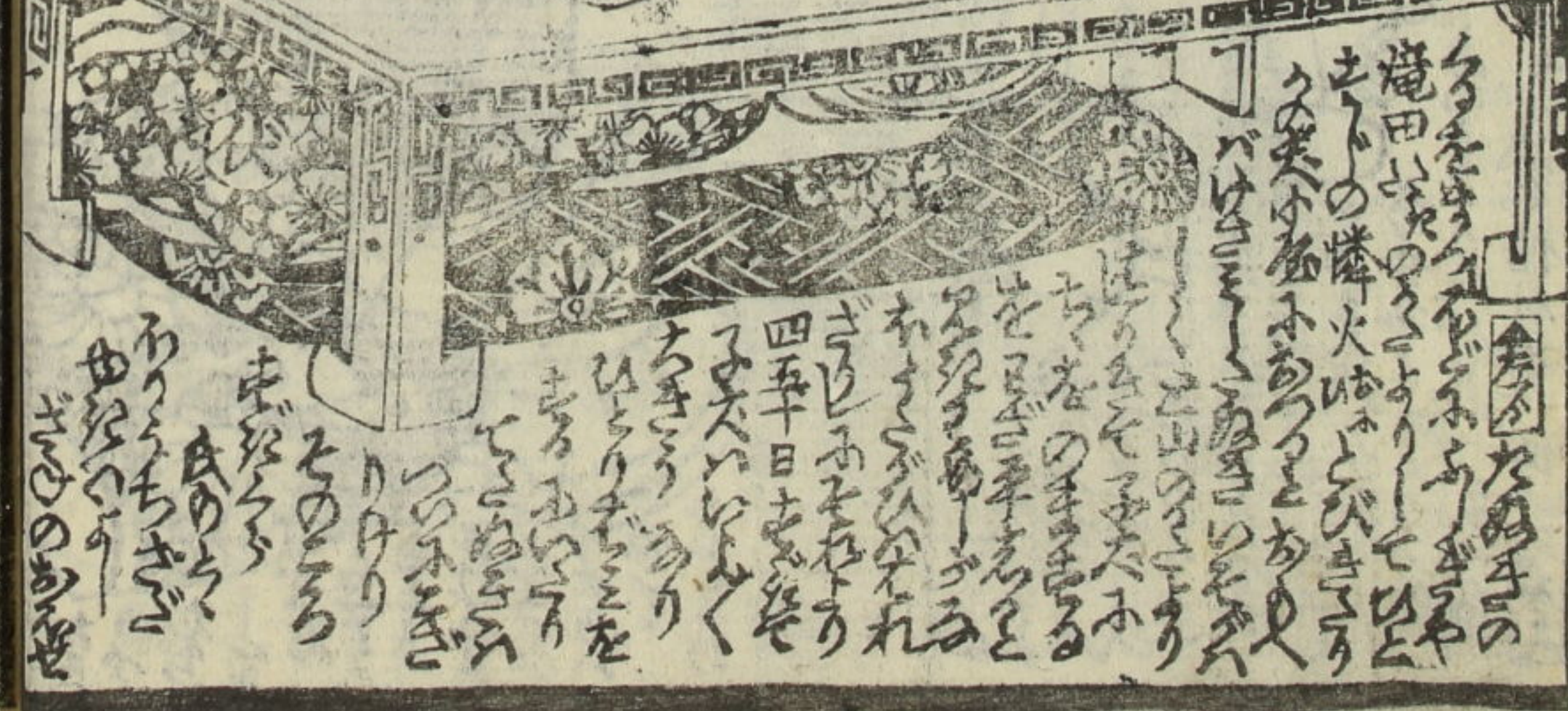
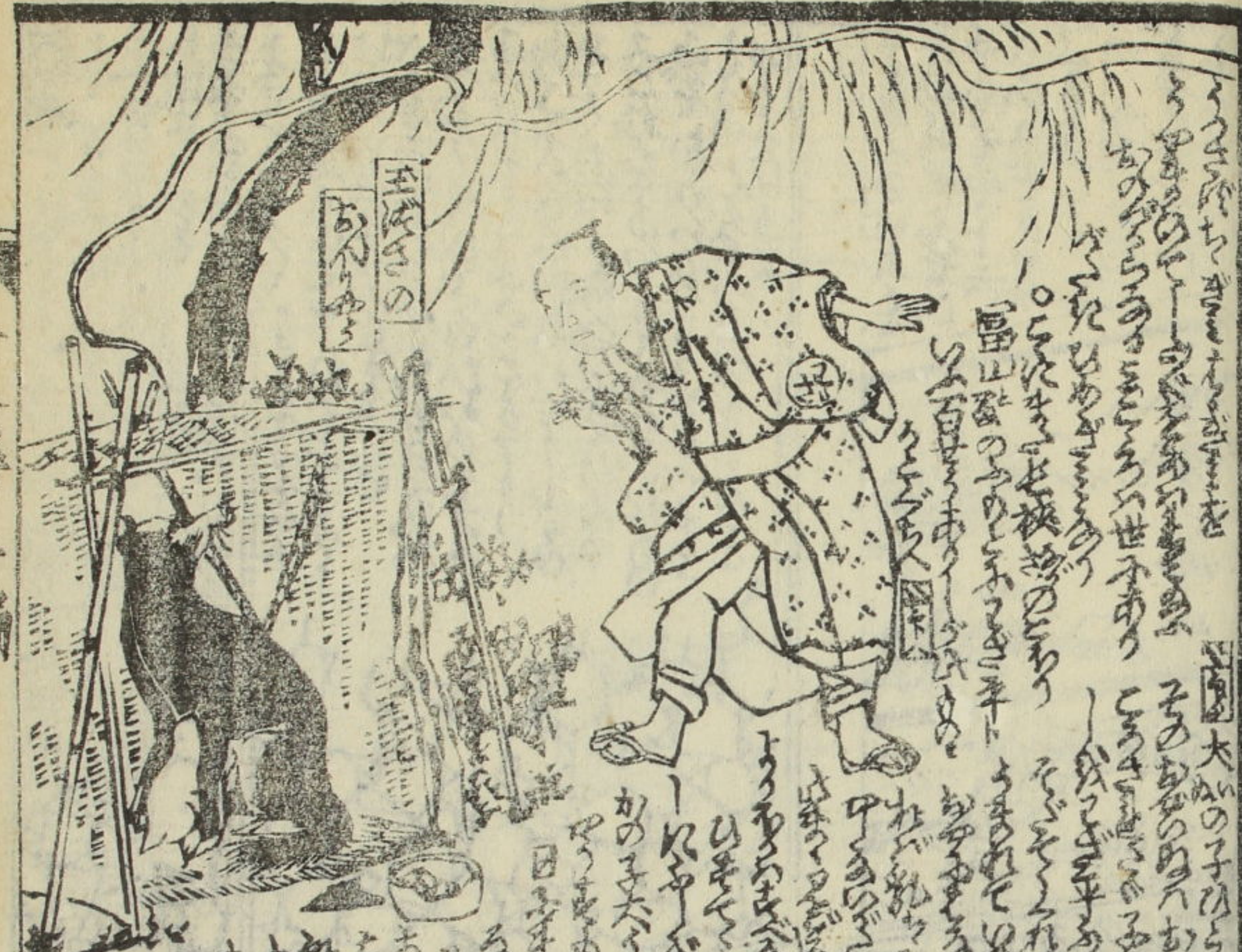


あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた



Vertical Japanese text columns located on the left page, surrounding the illustrations. The text is written in a cursive style, typical of Edo-period woodblock prints. It appears to be a narrative or dialogue related to the scenes depicted.

Vertical Japanese text columns located on the right page, surrounding the illustrations. Similar to the left page, it contains narrative or dialogue text in cursive style.

ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所

ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所

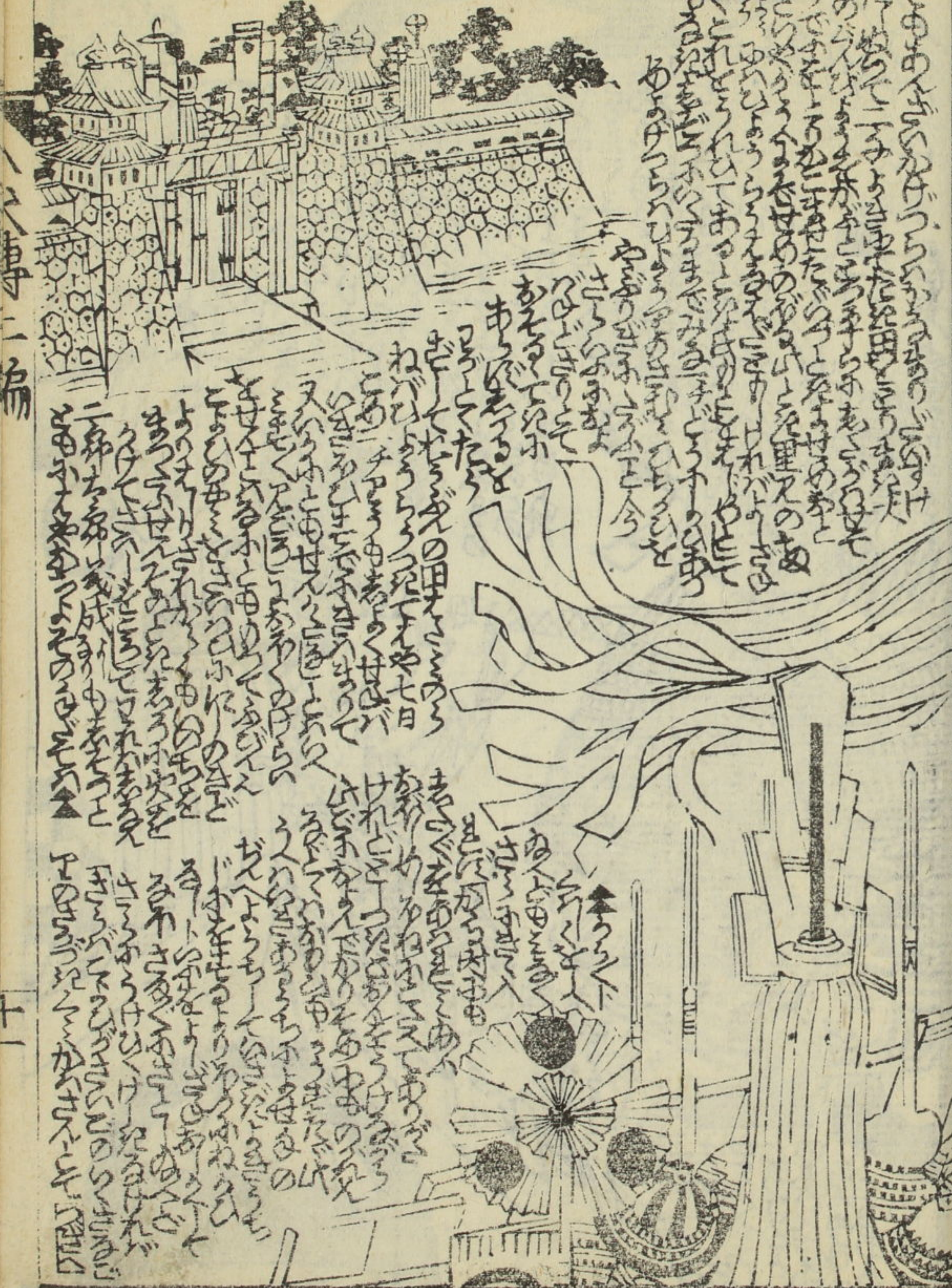
ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所

ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所

ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所

ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所
 ついでに
 御膳所

城の田原



二編

十一



國芳画

春水作

十



八景二篇

十一

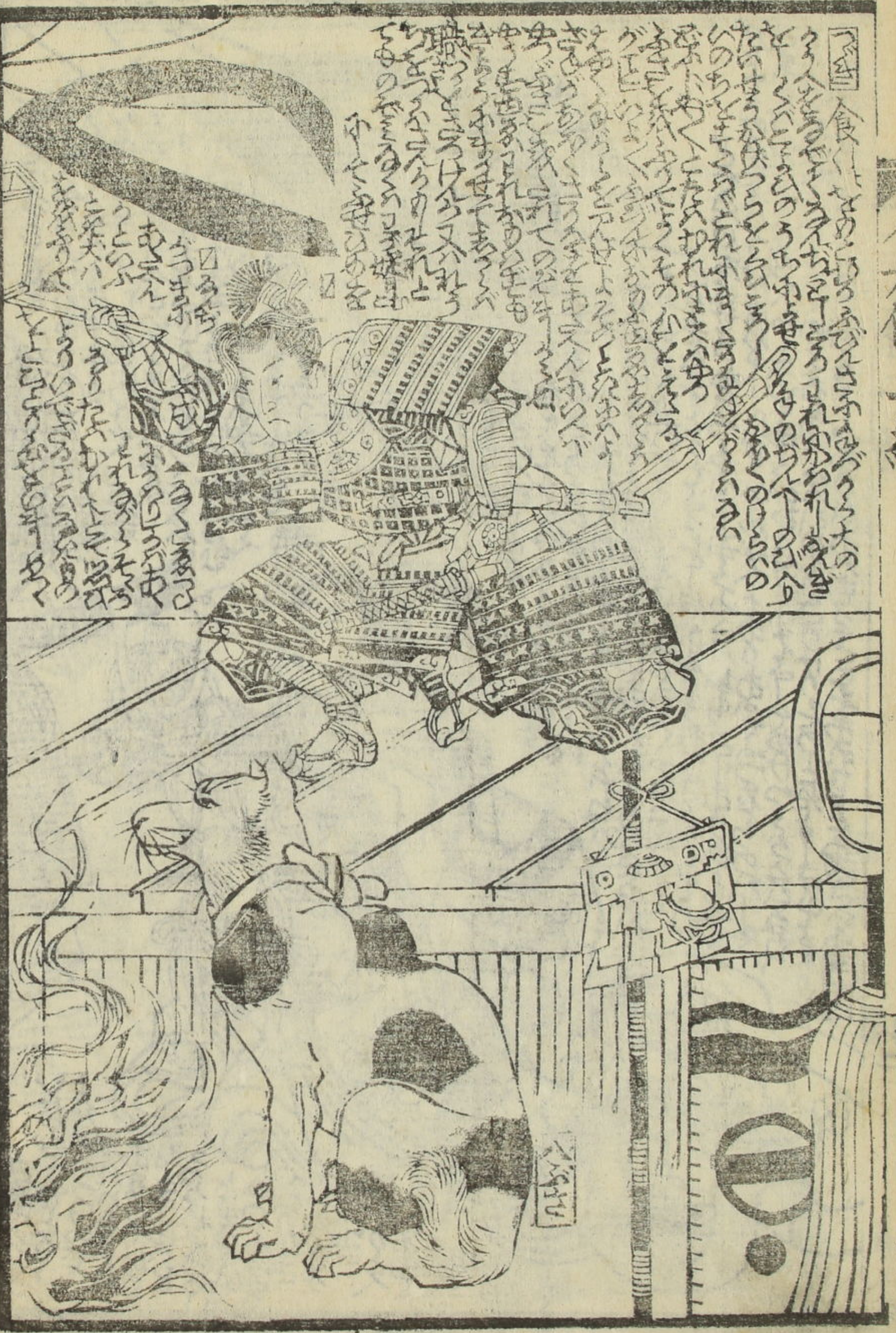


八景二篇



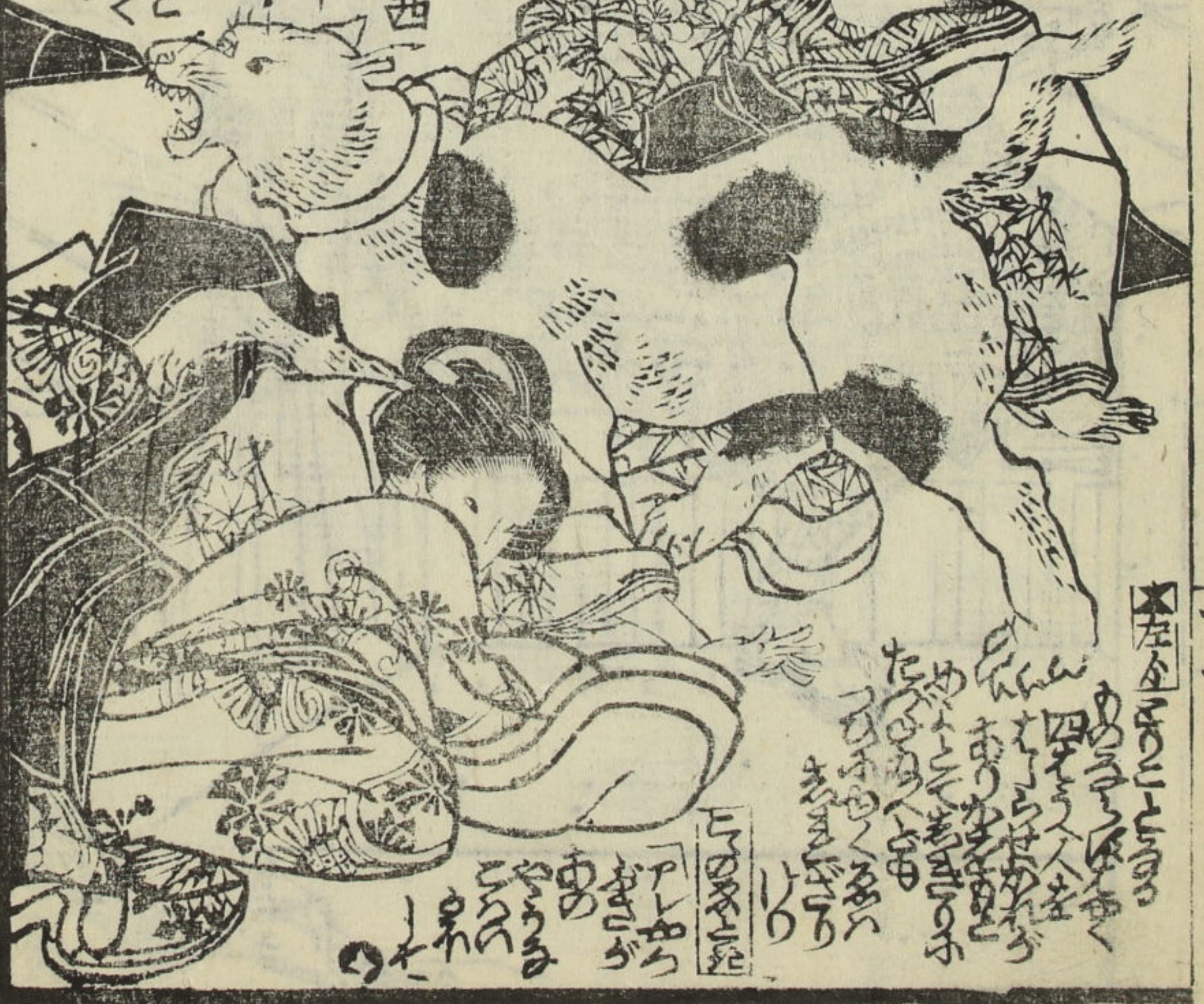
二ノ巻

111

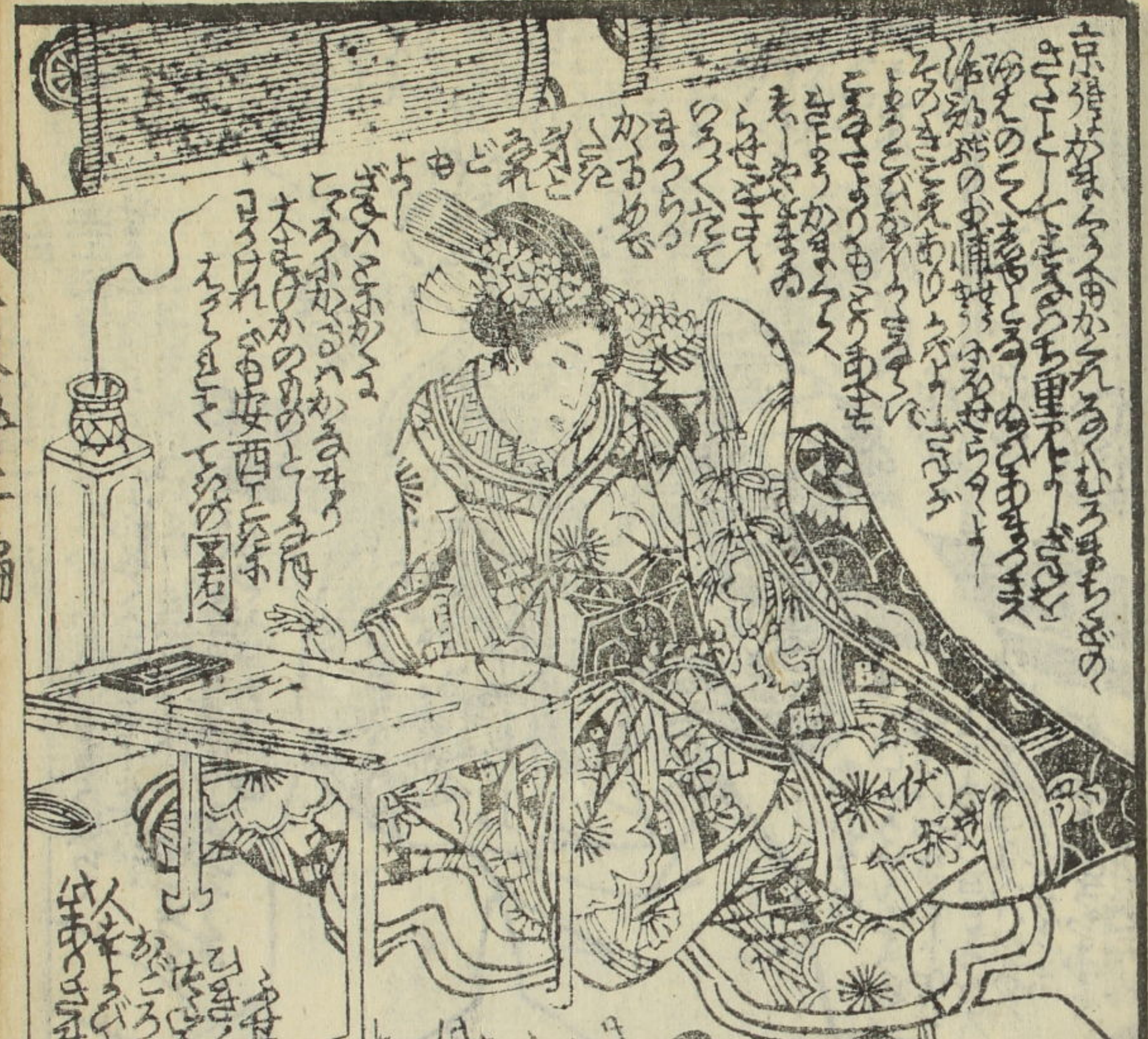


二ノ巻

いふは... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西...



左の... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西...



京... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西...

あ... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西... 山... 平... 里... 安西...



昔のころは、いふかたは、可成り由緒あり、
 甘きもの、さういふ、ゆゑ、さういふ、十年、
 ころ、さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 かの、さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 ち、さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、

〇は、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、

さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、



ま、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、

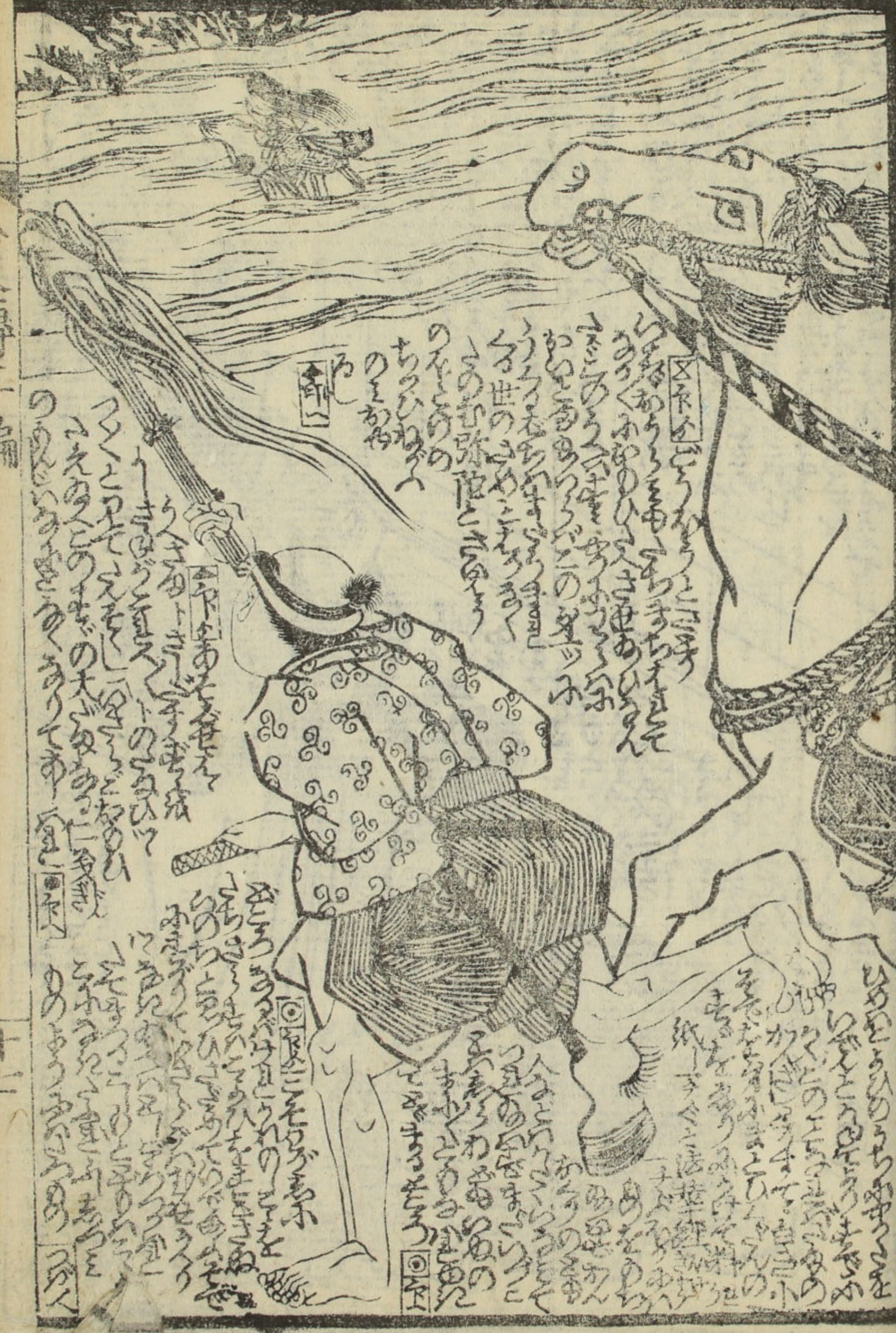
さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、
 さういふ、ゆゑ、さういふ、ゆゑ、



つぎおこらるる世をすしる中世のや
 ちとあひのあらはるる世を
 自らをいへるる世をいへるる世を
 けさるる世をいへるる世をいへるる世を
 とそのいへるる世をいへるる世を
 大にいへるる世をいへるる世を
 ひさしにいへるる世をいへるる世を
 八字をいへるる世をいへるる世を

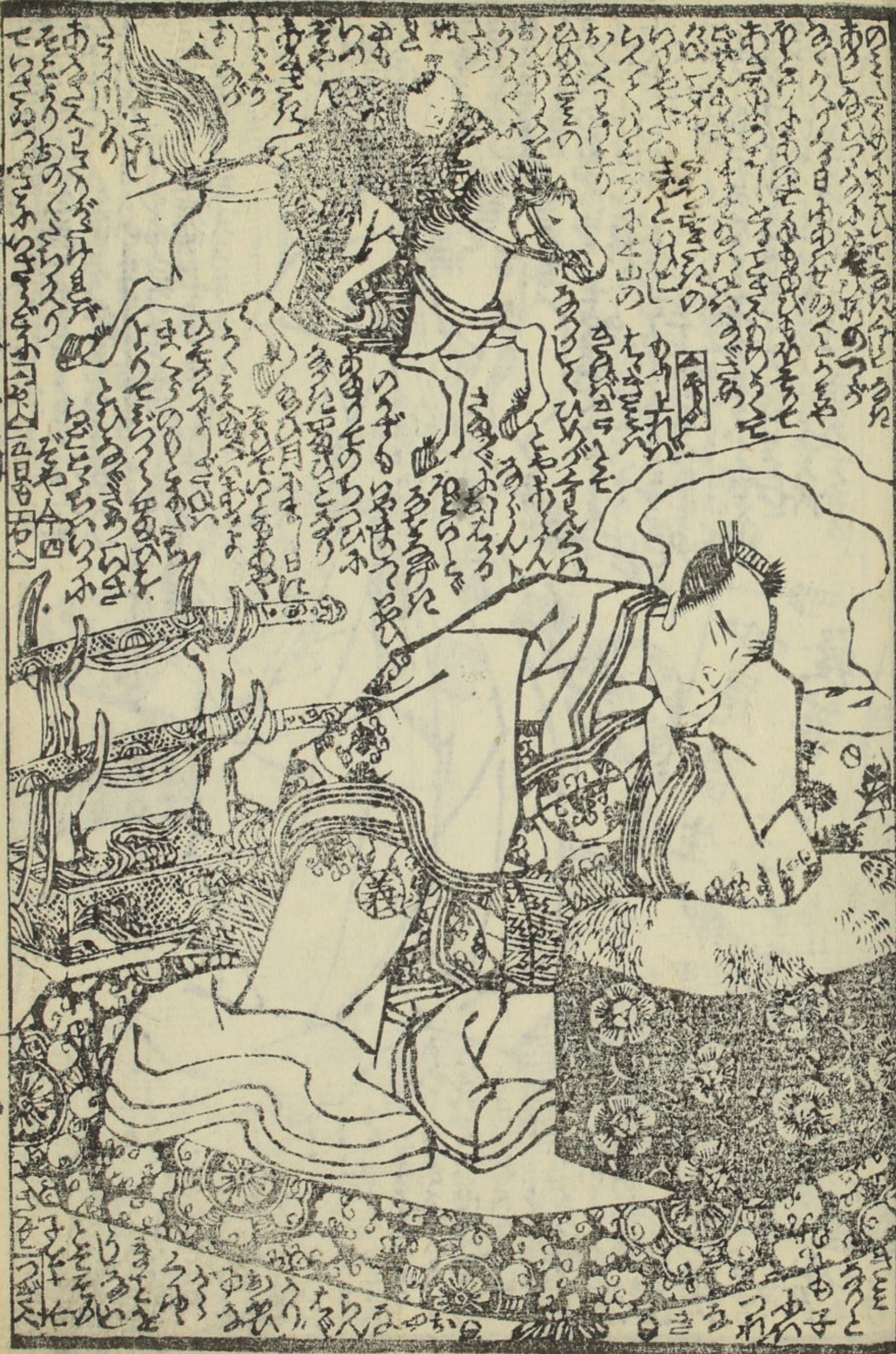
八幡神の如きは
 大助六の如きは
 ちとあひのあらはるる世を
 自らをいへるる世をいへるる世を

大助六の如きは
 ちとあひのあらはるる世を
 自らをいへるる世をいへるる世を
 けさるる世をいへるる世を
 とそのいへるる世をいへるる世を
 大にいへるる世をいへるる世を
 ひさしにいへるる世をいへるる世を
 八字をいへるる世をいへるる世を



八幡神の如きは
 大助六の如きは
 ちとあひのあらはるる世を
 自らをいへるる世をいへるる世を
 けさるる世をいへるる世を
 とそのいへるる世をいへるる世を
 大にいへるる世をいへるる世を
 ひさしにいへるる世をいへるる世を
 八字をいへるる世をいへるる世を

八幡神の如きは
 大助六の如きは
 ちとあひのあらはるる世を
 自らをいへるる世をいへるる世を
 けさるる世をいへるる世を
 とそのいへるる世をいへるる世を
 大にいへるる世をいへるる世を
 ひさしにいへるる世をいへるる世を
 八字をいへるる世をいへるる世を



八ノ巻 一ノ巻



八ノ巻 一ノ巻

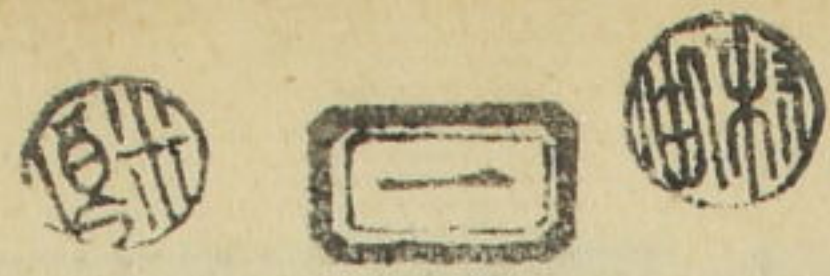


烏永春水作

一勇齋國芳画



ついでに八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには
八犬傳の物語を讀むに及ばずして其の先づきには



原傳第士面伏姫富山入る及び其身大に穢されれば法華經の
威力より入るも其欲を忘れず讀經は去る耳をすし如く入歸の
友とありて終は菩提心發せしより相感するも等しけれ胎は實
なるの實をせし後第士面に至りて八犬士出現の事ゆを文中の意
味深長ゆゑ實は這冊子に大面目といはゆ一平が此假字讀八傳
欲する處一筋は婦幼の憂は媚るゆりて唯捷徑を旨とすなれば具
眼の人朝りて龍宮の門護てふ海月ありて是を又肯めれば策
子と言ひぬやせんこれれ遺憾あるゆへに先圍は大象の遊ばせり
作者は苦心又知るべし噫余あらず愚痴あるは益あり厚言をせり

弘化五年戊申春正月吉旦開鐫



龍
野
路



大
法師

浪客
網乾
九文
二郎



小野
實大川
莊助
義任

毒
婦
篠

三十一

三

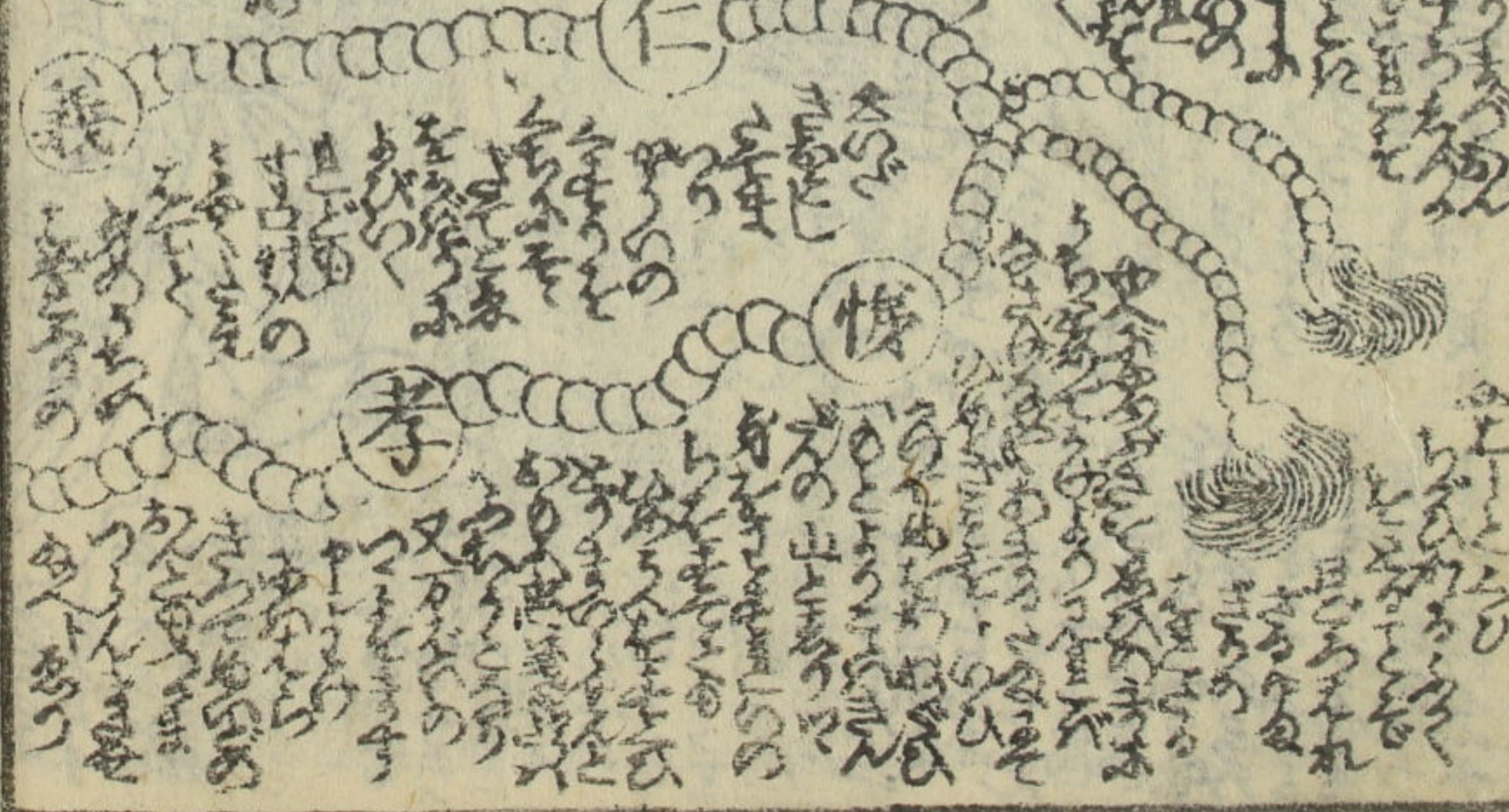


大塚
莊
基
六



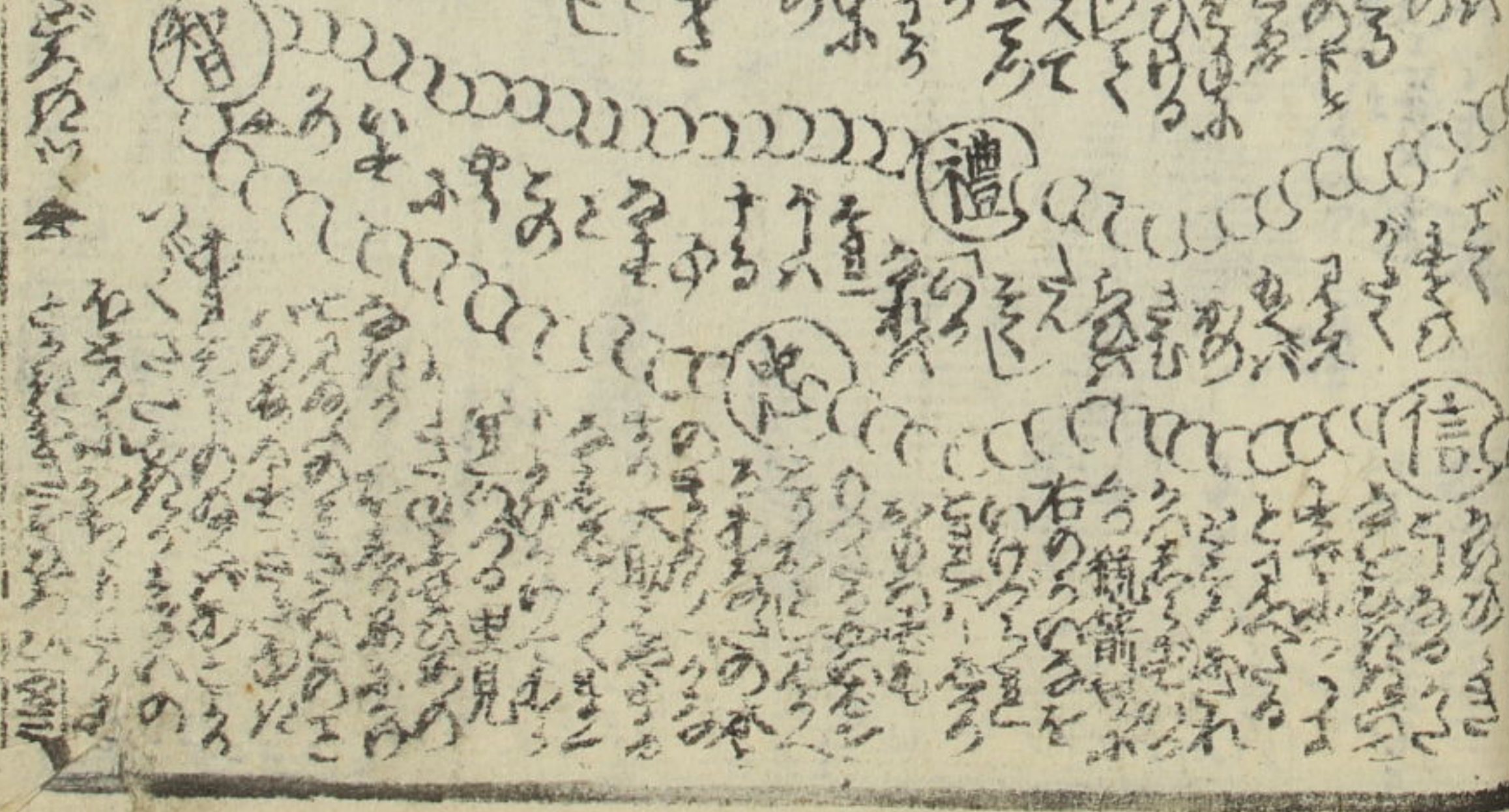
Handwritten text in the upper section of the right page, consisting of several vertical columns of cursive Japanese characters.

Handwritten text in the middle section of the right page, continuing the vertical columns of cursive Japanese characters.



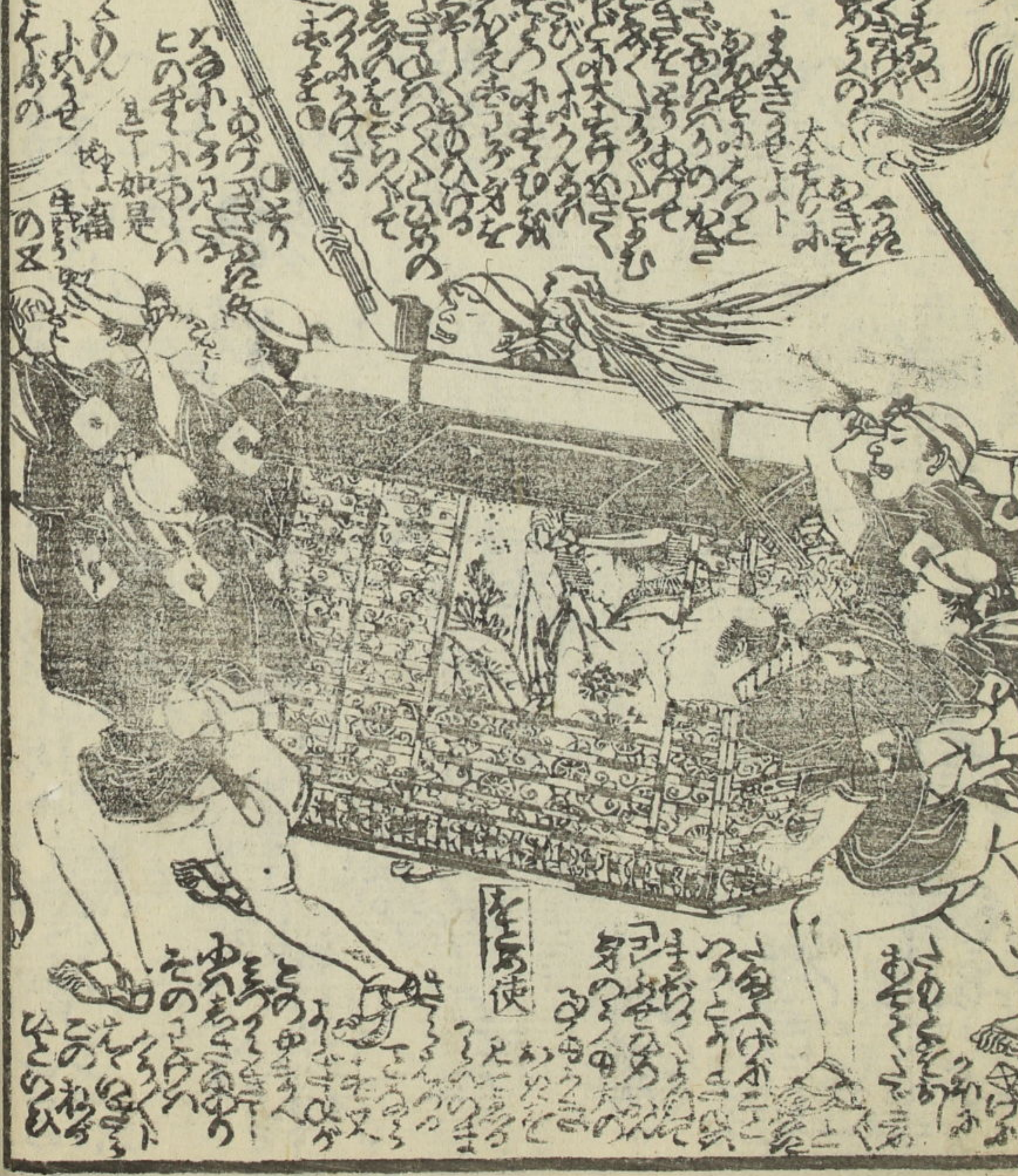
Handwritten text in the upper section of the left page, consisting of several vertical columns of cursive Japanese characters.

Handwritten text in the middle section of the left page, continuing the vertical columns of cursive Japanese characters.

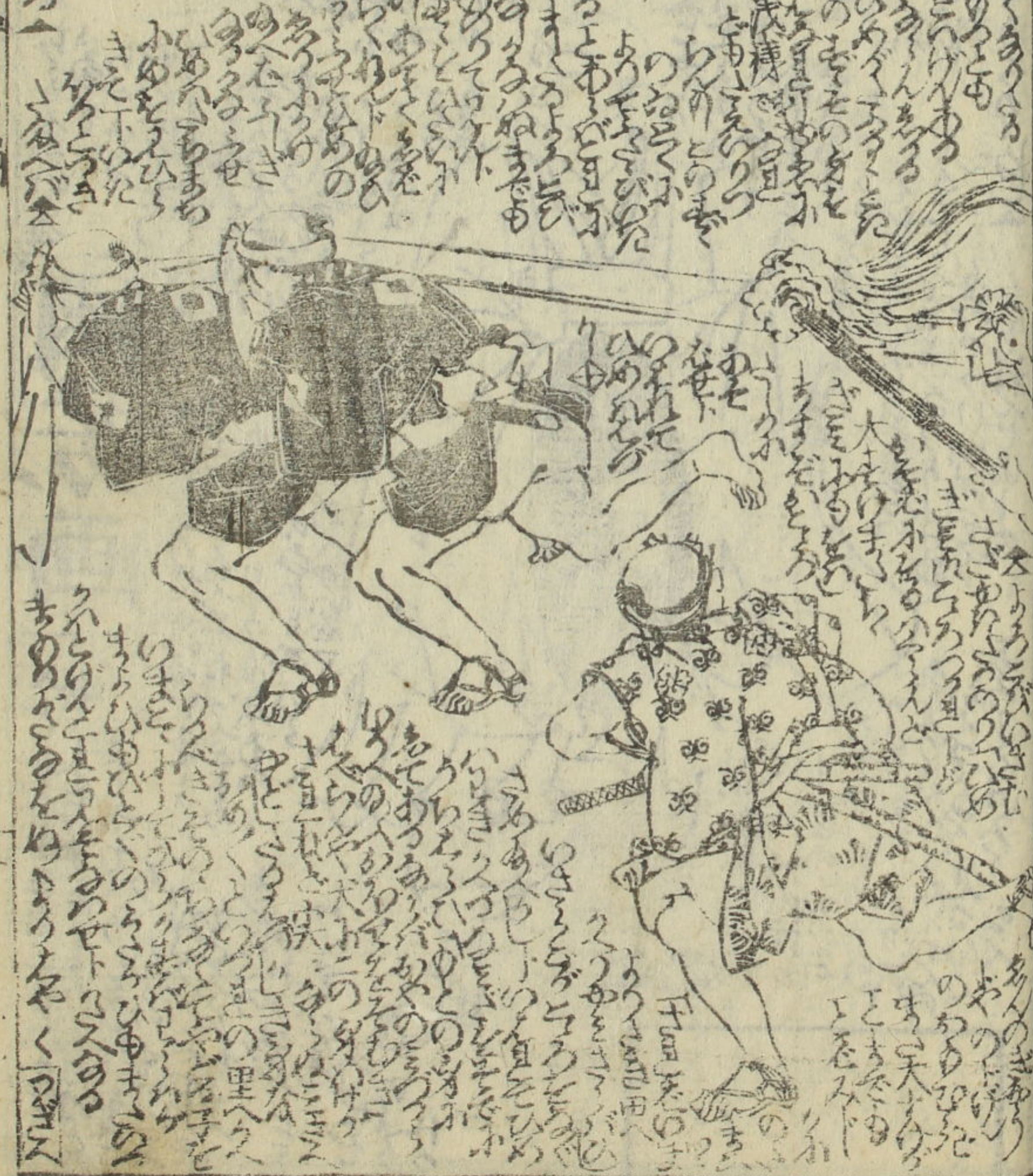


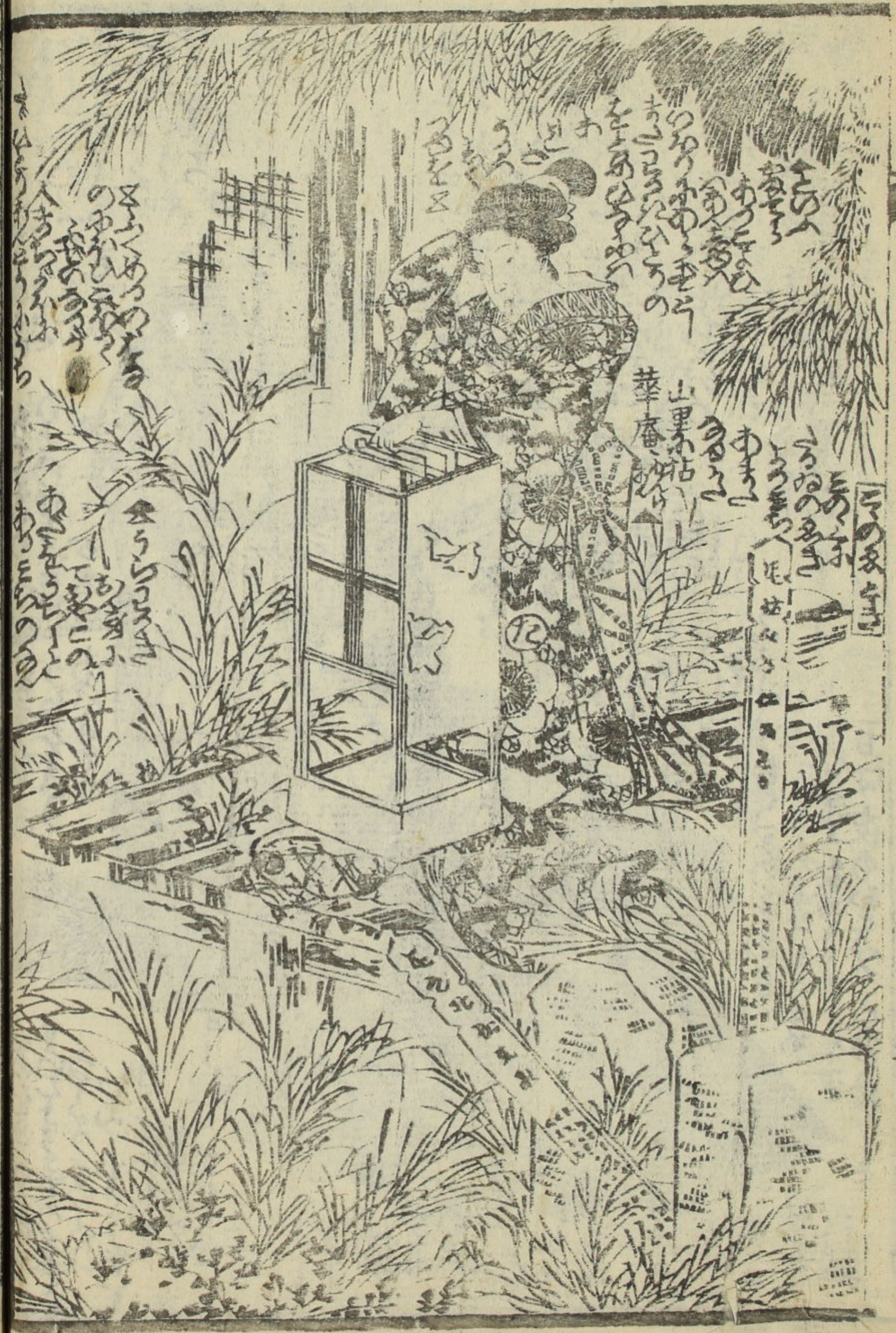


ついでに... 大正三... 大正三... 大正三...



ついでに... 大正三... 大正三... 大正三...







このころは...
京都の...
...

...



...

...

六月廿二日の夜あり
 月夜をめでたし
 月にあつちふれ
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし

全あつちふれ
 正の月夜をめでたし
 月にあつちふれ
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし

六月廿三日の夜あり
 月夜をめでたし
 月にあつちふれ
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし

六月廿四日の夜あり
 月夜をめでたし
 月にあつちふれ
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし

全あつちふれ
 正の月夜をめでたし
 月にあつちふれ
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし

六月廿五日の夜あり
 月夜をめでたし
 月にあつちふれ
 らふもめでたし
 月夜をめでたし
 らふもめでたし



八十八年二月

ハツ房



衛軍家

糠助

大塚邑の
莊客



經營百事費精神
玉兔交時當得意

南北奔馳運水新
恰如枯木甬逢春

犬川衛二

則任

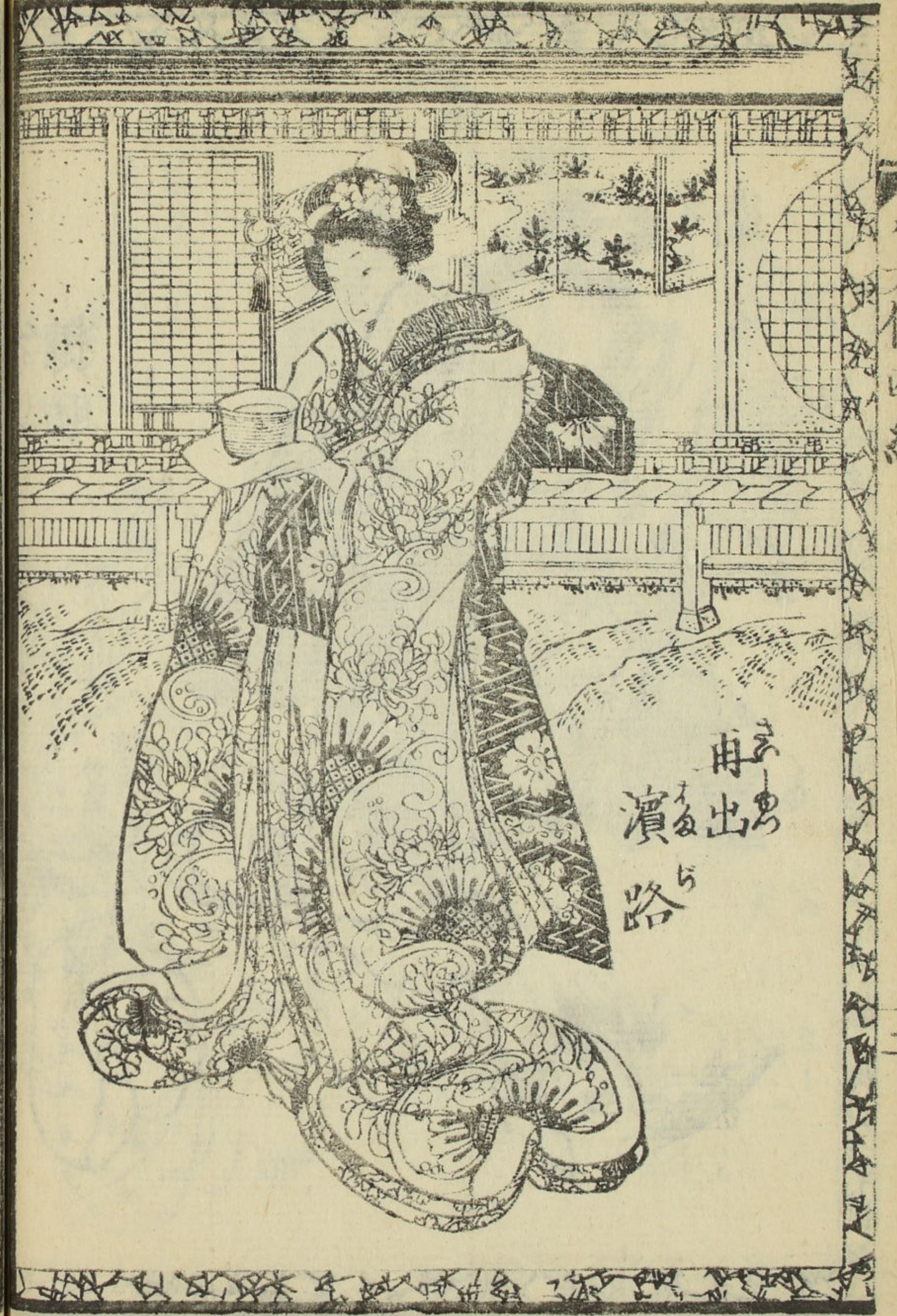
犬傳四編

犬傳四編



三事の編

再出
犬塚信乃
戊孝



再出
濱路

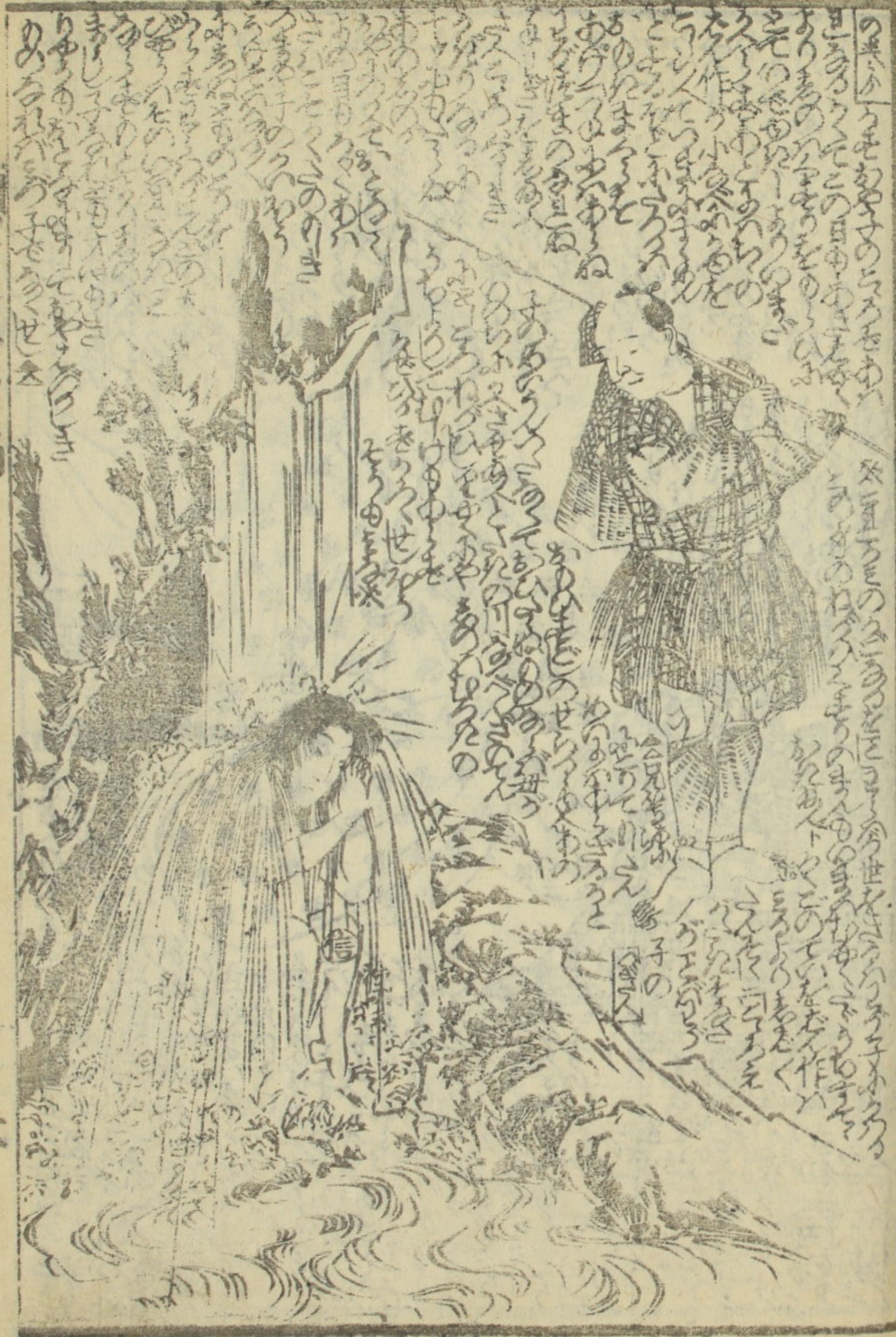
犬づゝを伴つてまのつらつら川の
さきへつゝおもひつゝも
そのこゝろへつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも



※里小
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも
おもひつゝおもひつゝも



八代傳四巻



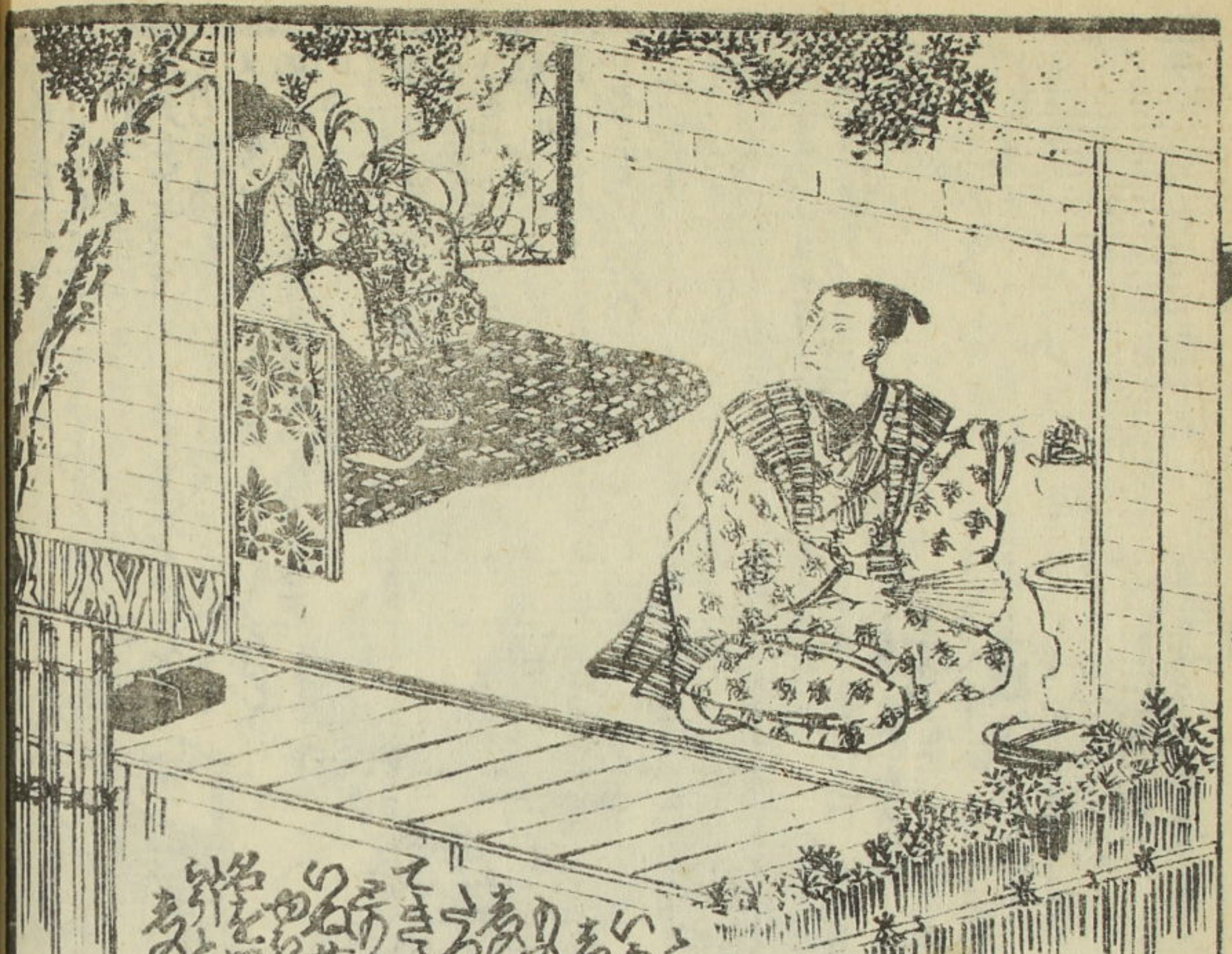
の美しうそわやのらろをわ
目さるうてこの目の中を
ありあのんをそのひひ
とてのめりありのま
るく作う小入るの
とく作う小入るの
とく作う小入るの
とく作う小入るの

あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを

あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを

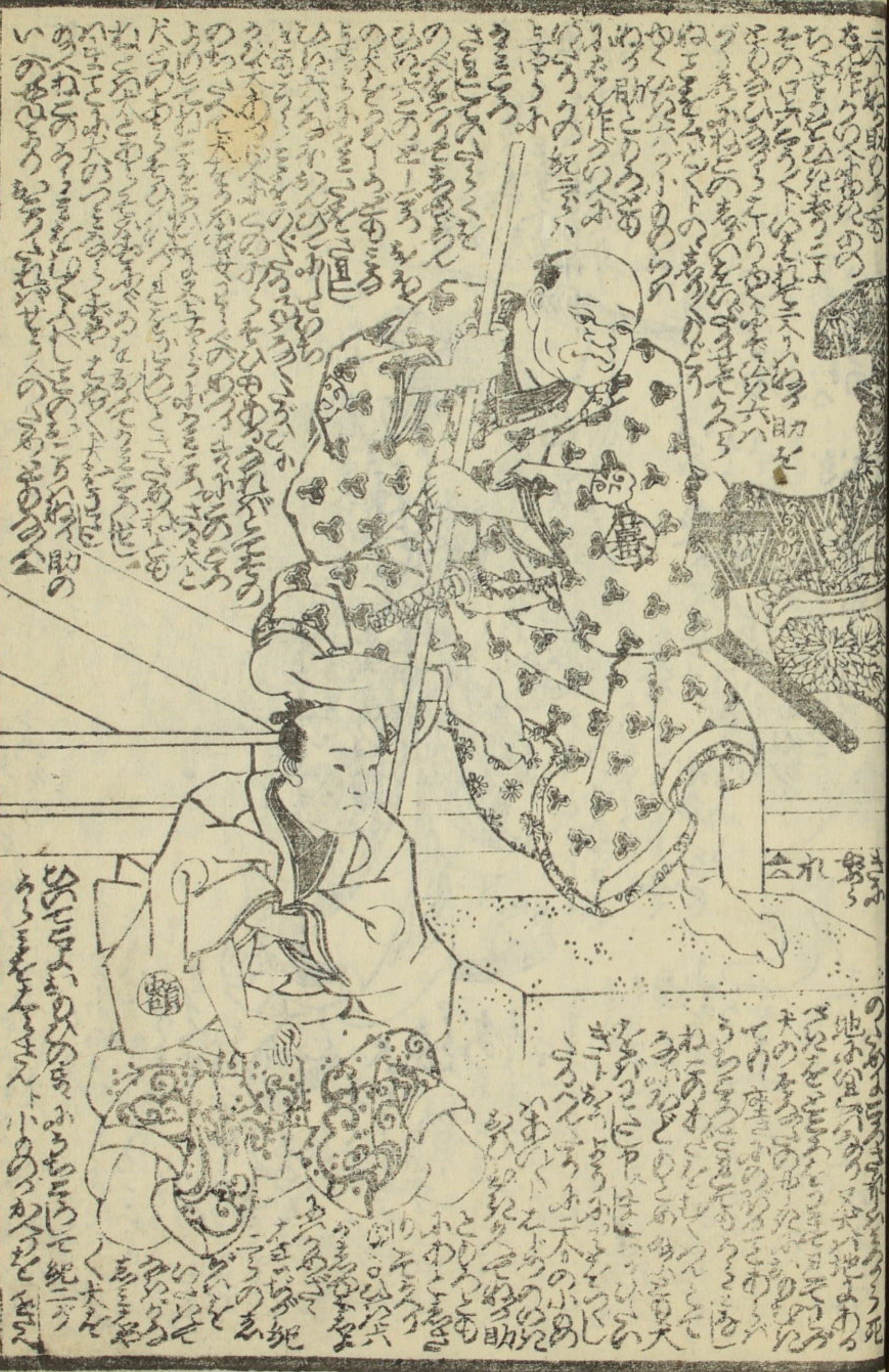
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを

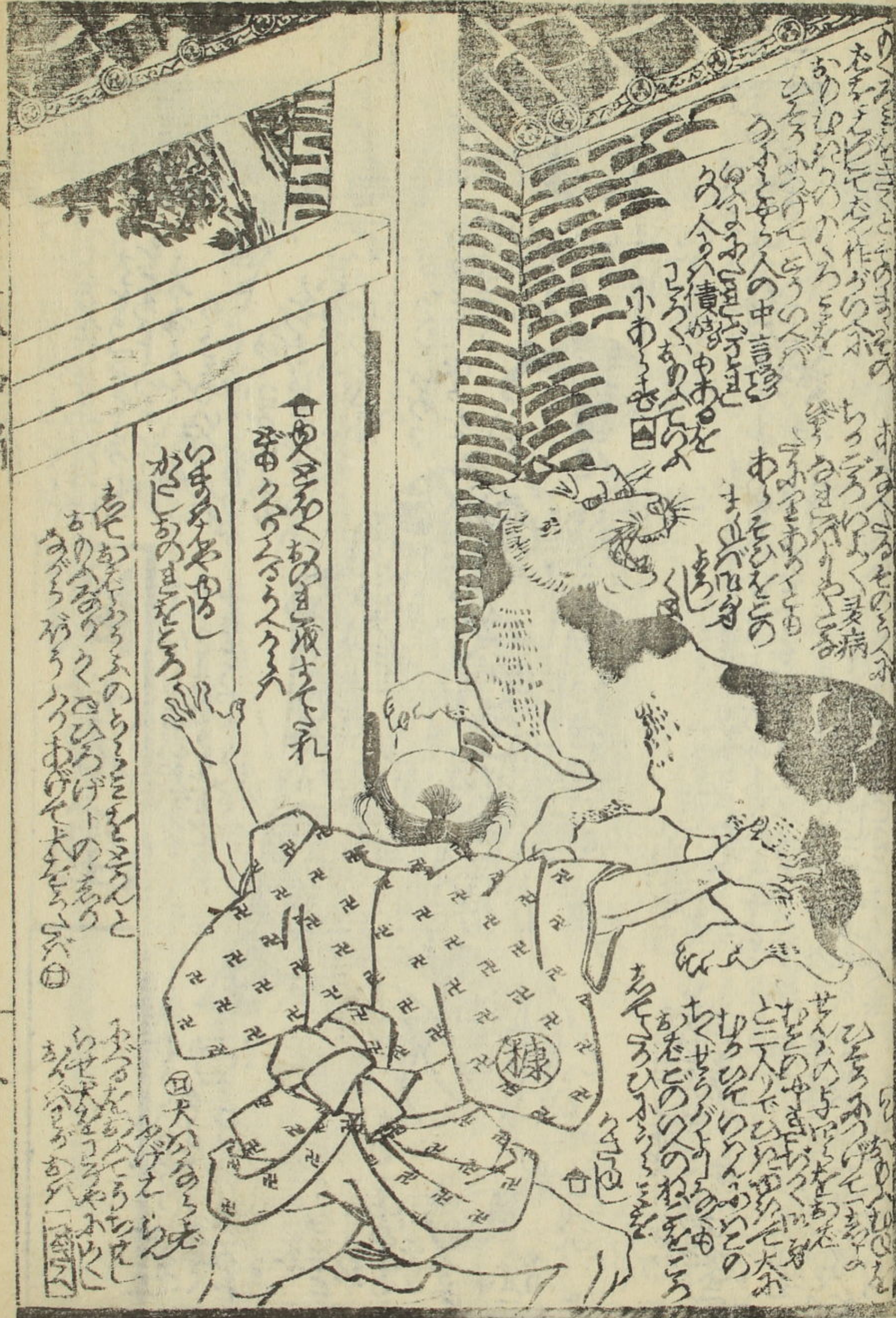
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを



つぎあの上をいよめ
子にきめいよめ
あふねとあふの
あふねとあふの
あふねとあふの
あふねとあふの

あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを
あゆまふまを

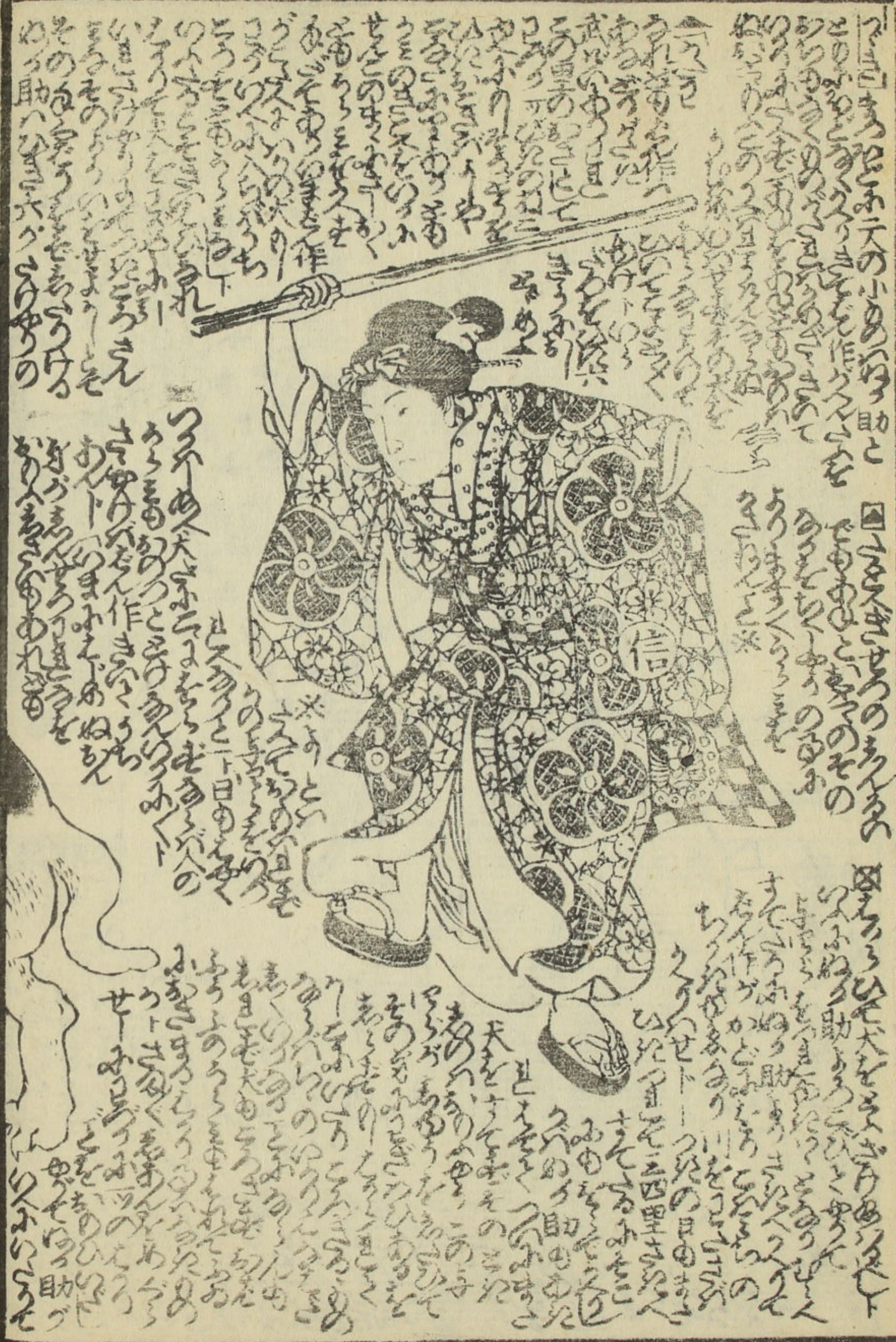




あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは

あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは

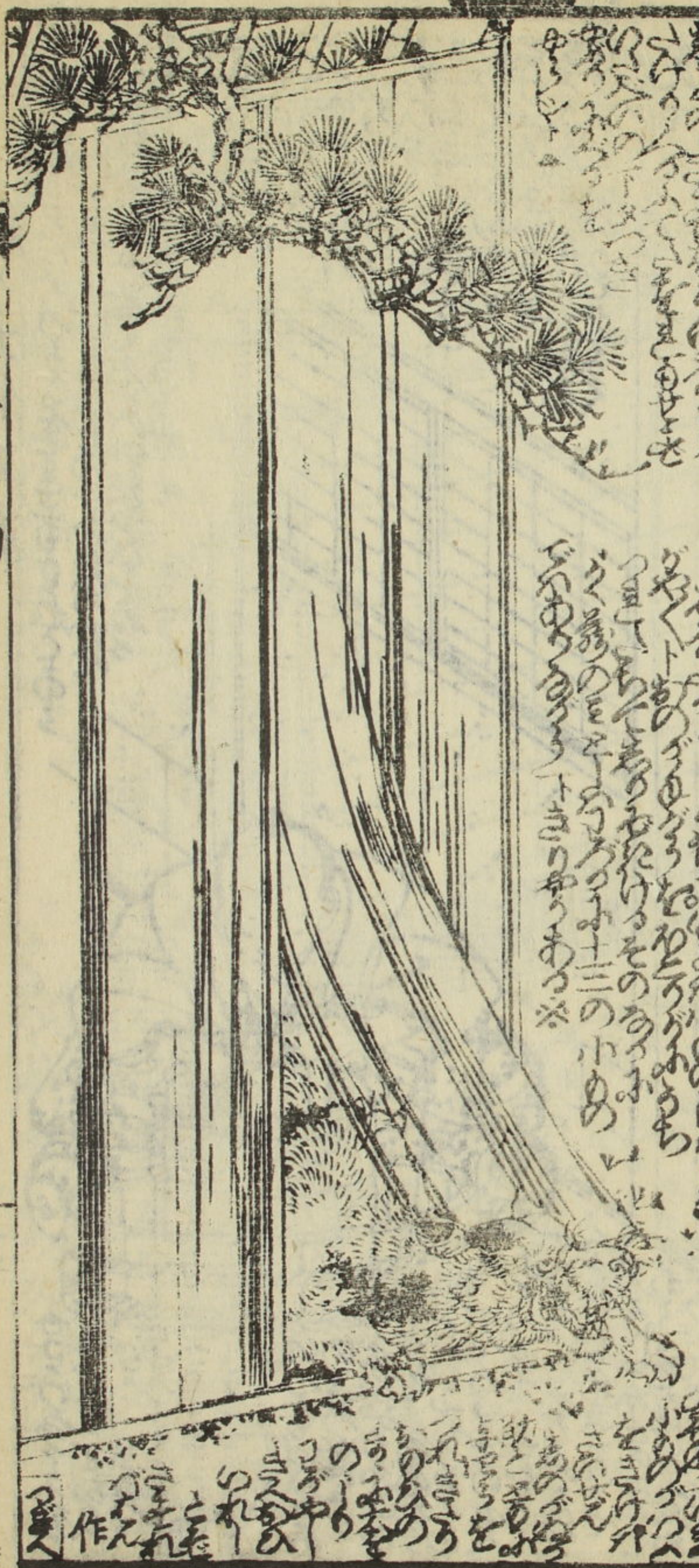
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは



あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは

あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは

あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは
あつちのうらやまの
おのれをいふは



そのまはらうのうらたては...
うらたては...
うらたては...
うらたては...

いふに...
いふに...
いふに...
いふに...

この...
この...
この...
この...

作人...
作人...
作人...



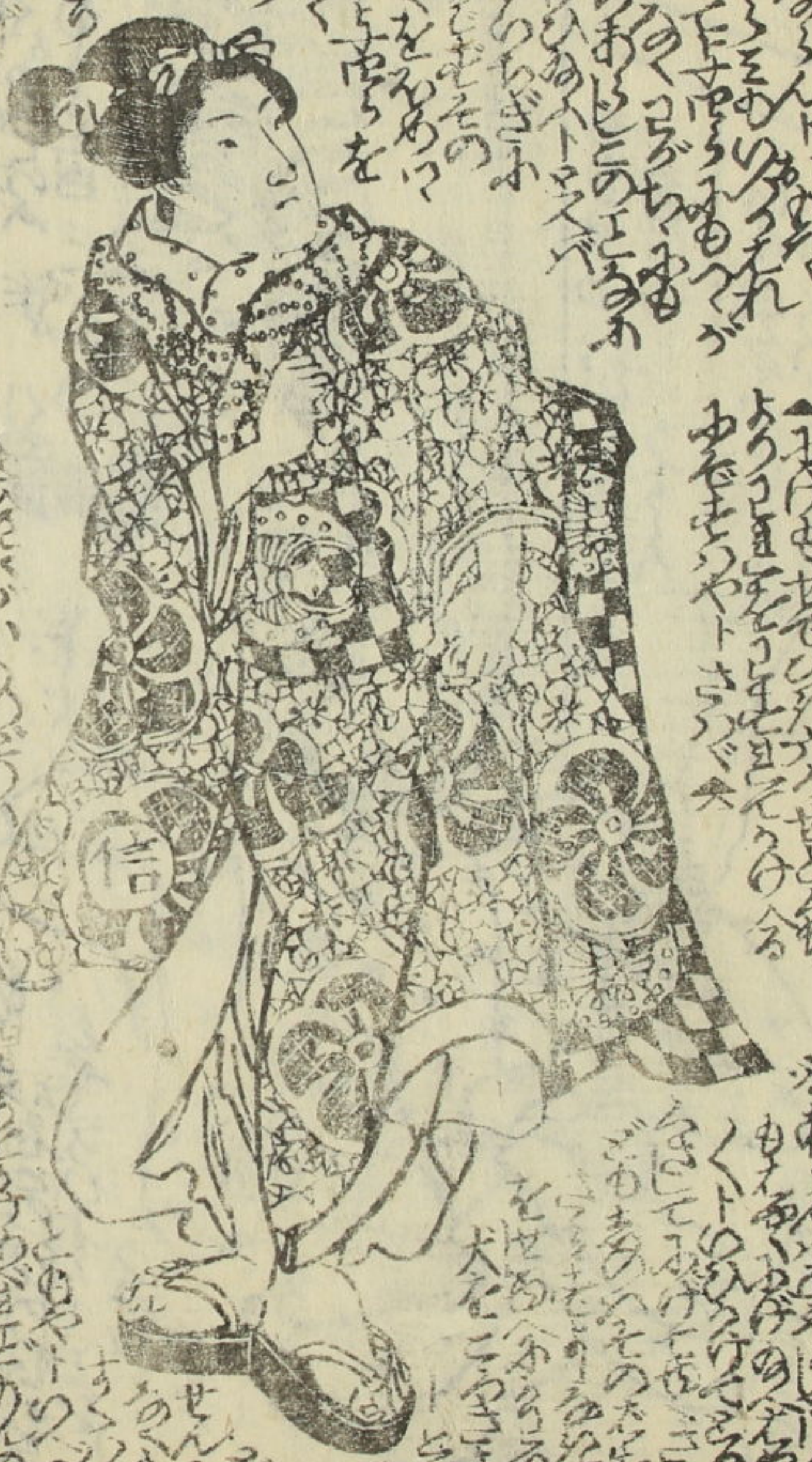
この...
この...
この...
この...

この...
この...
この...
この...

この...
この...
この...
この...

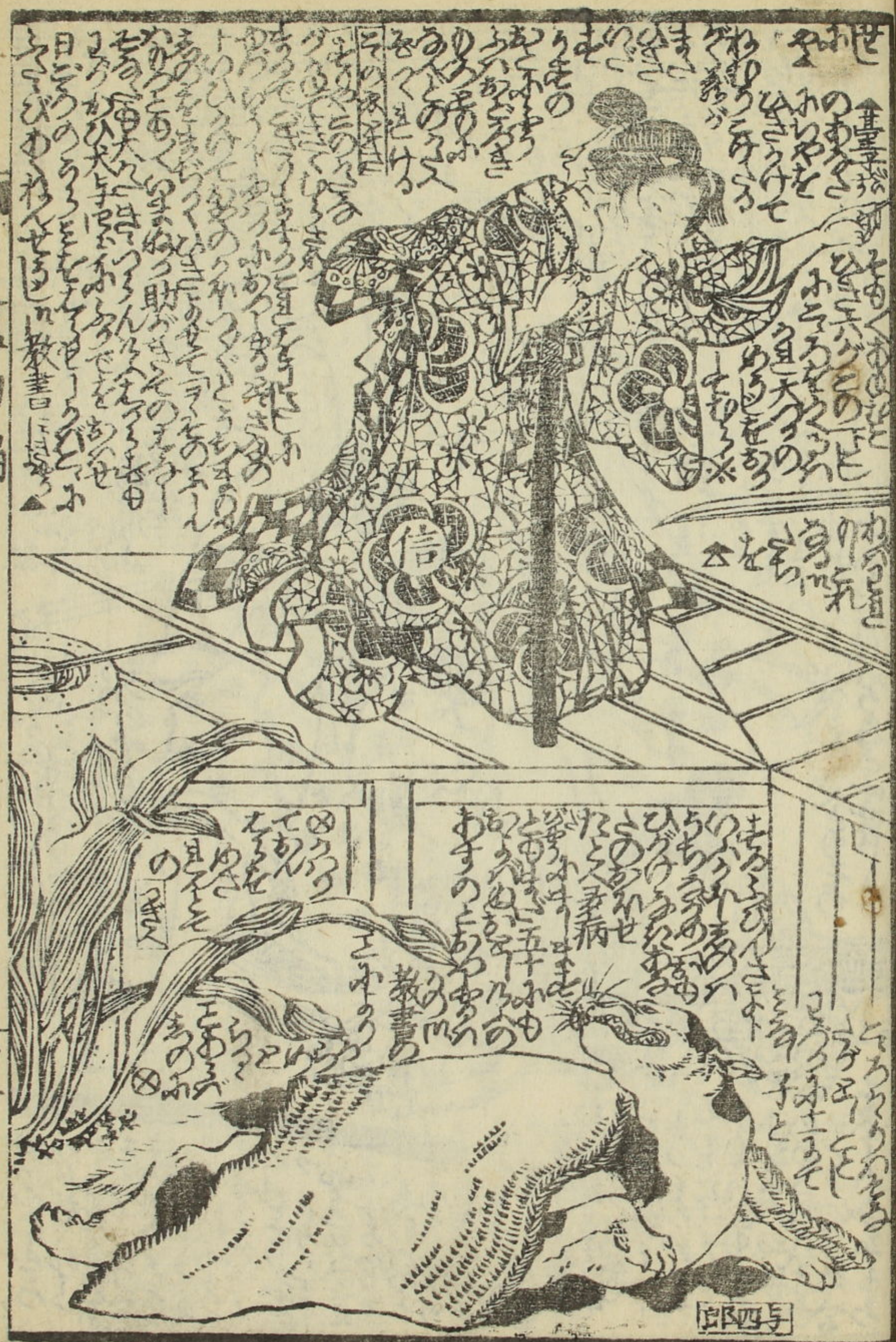
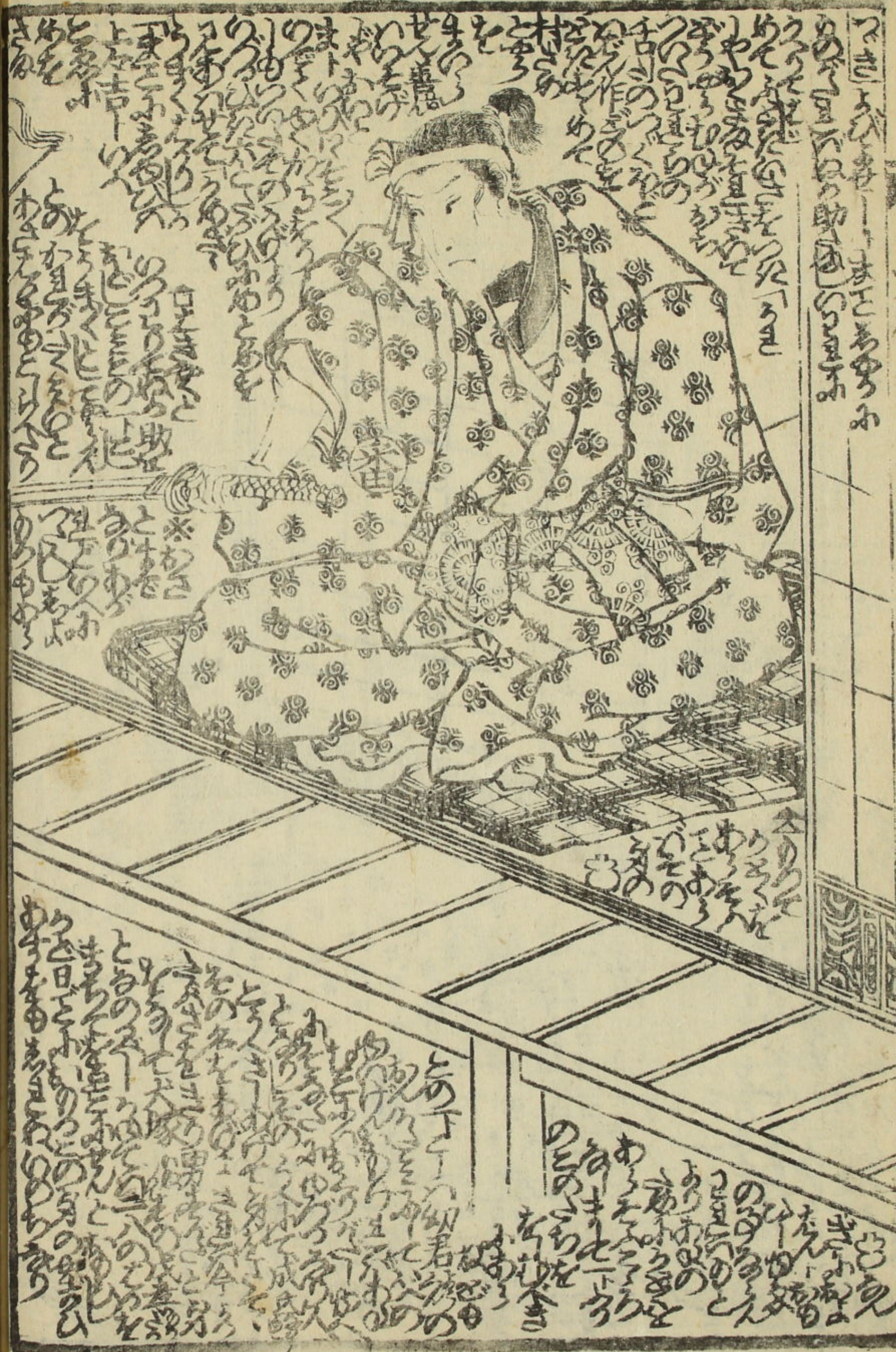
この...
この...
この...
この...

國芳画

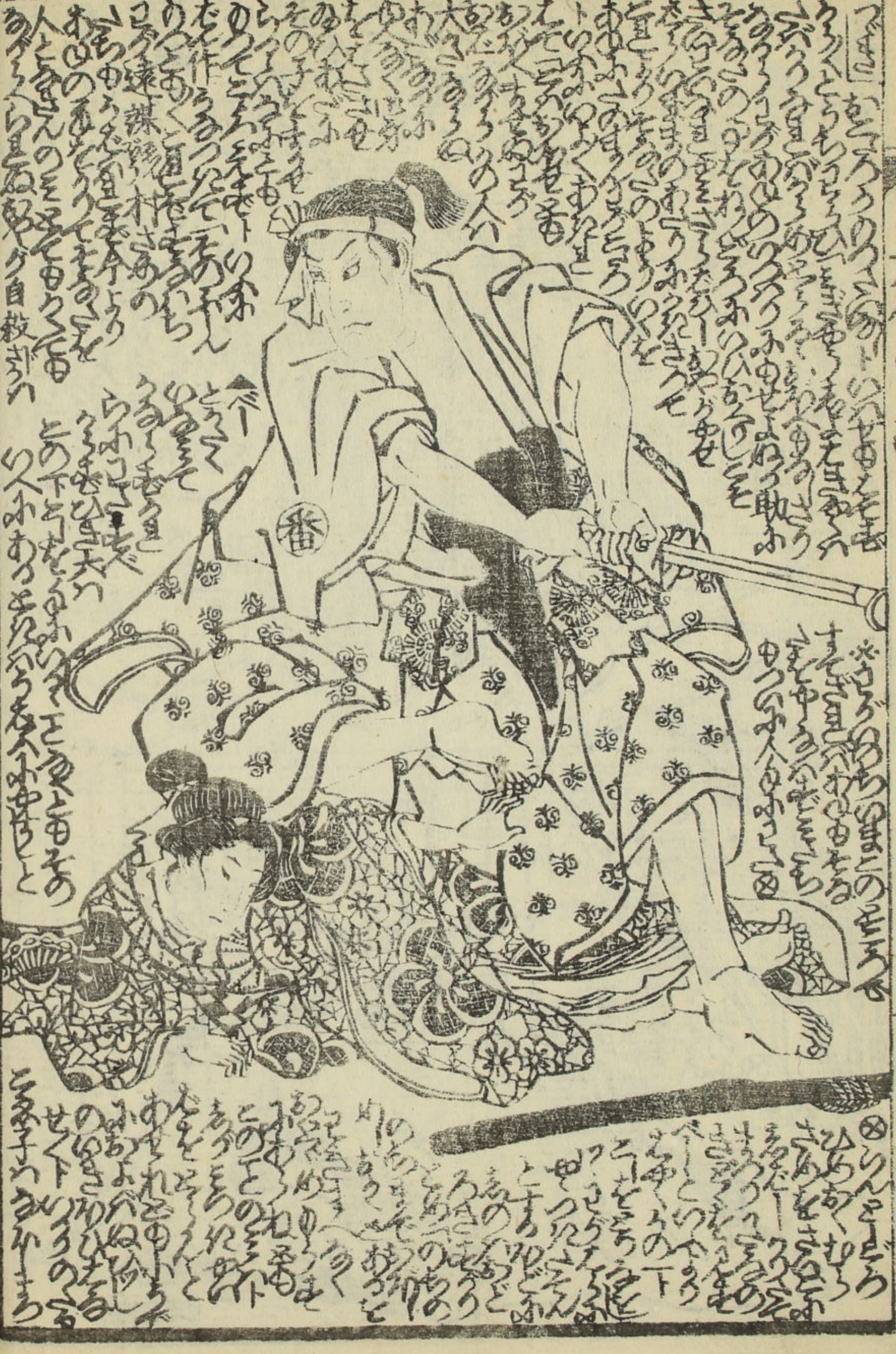
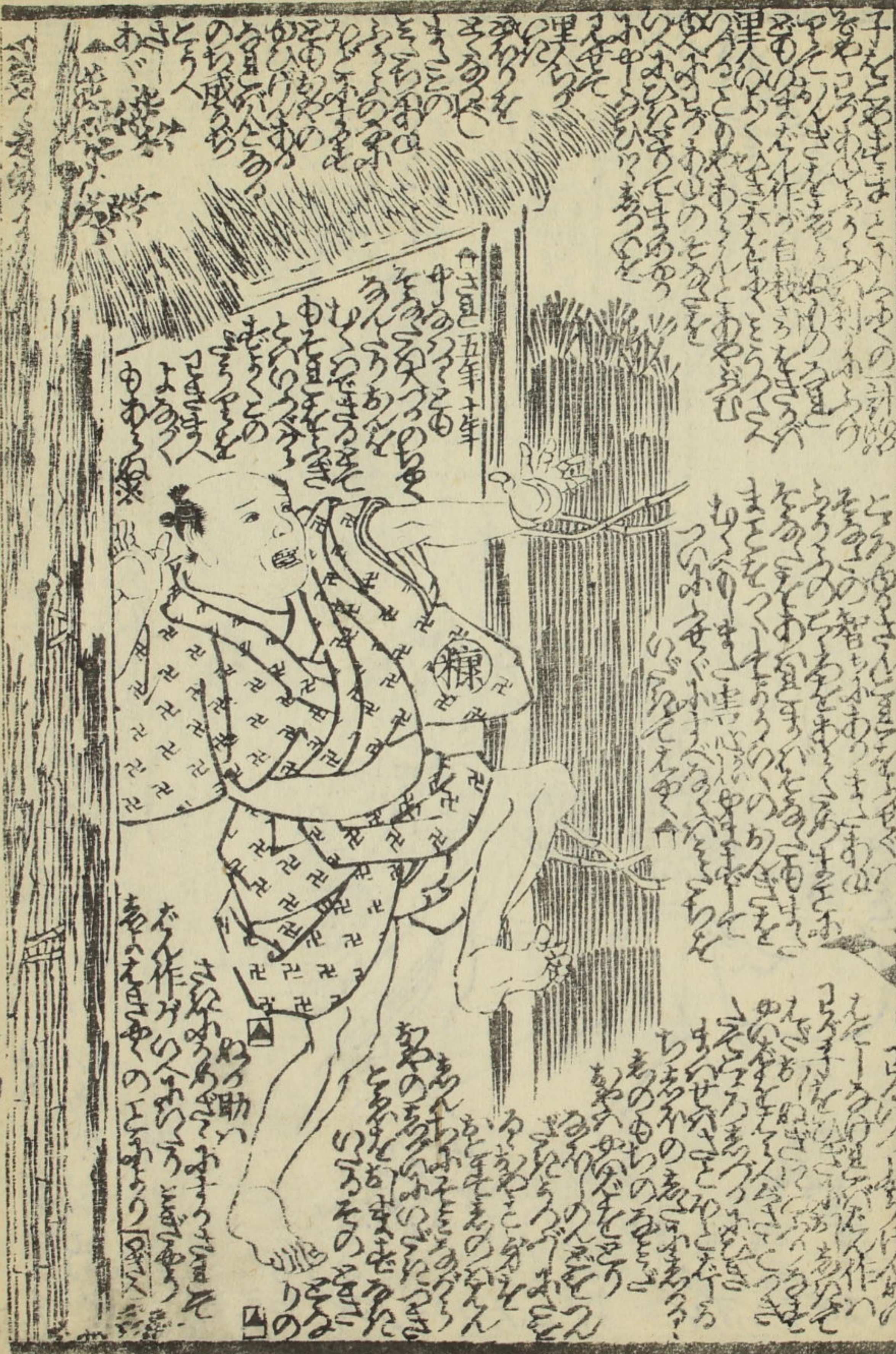


この...
この...
この...
この...

この...
この...
この...
この...



四号



大徳四年

十四

大徳四年

十四



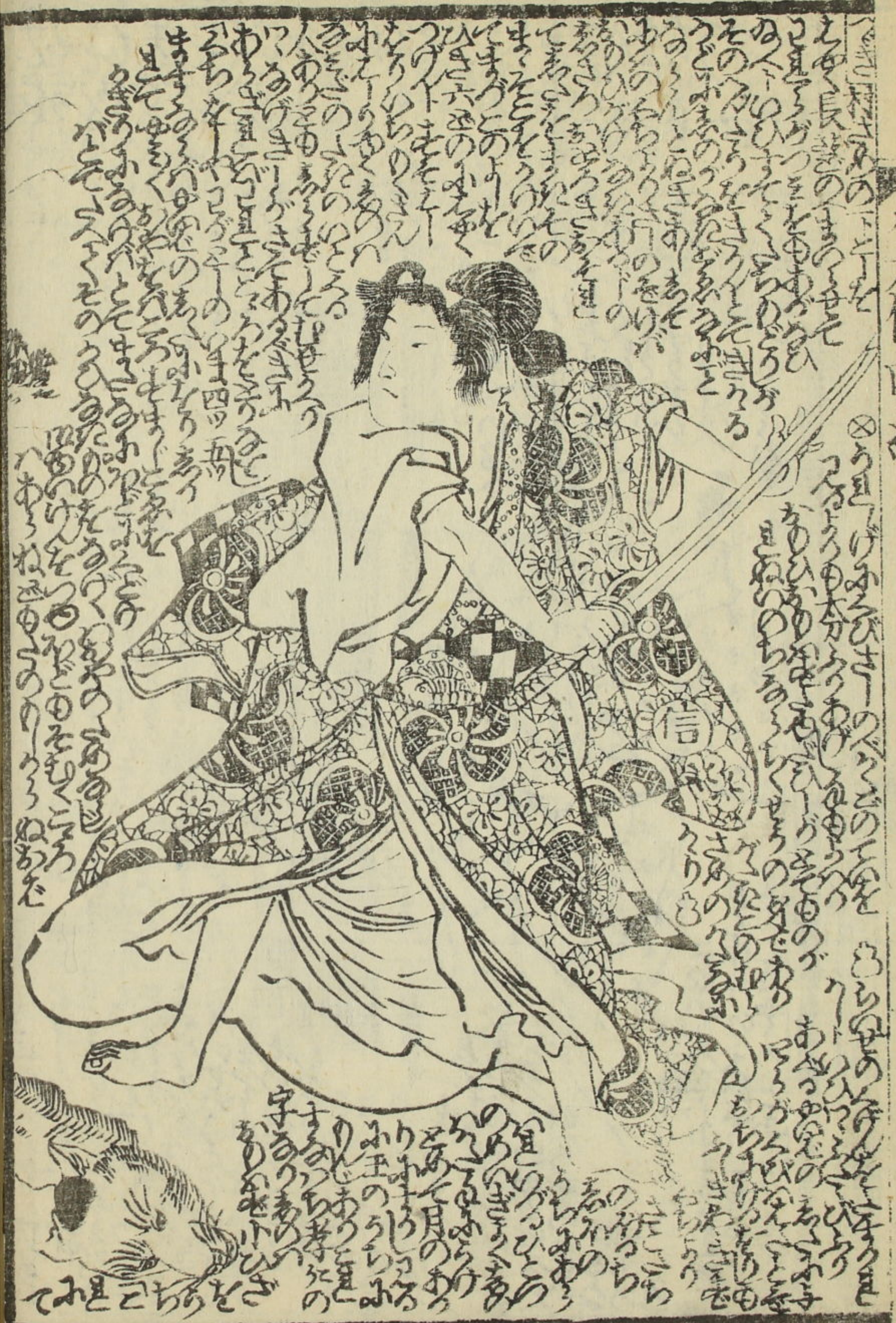
あつたての
あつたての
あつたての

あつたての
あつたての
あつたての

あつたての
あつたての
あつたての

あつたての
あつたての
あつたての

あつたての
あつたての
あつたての



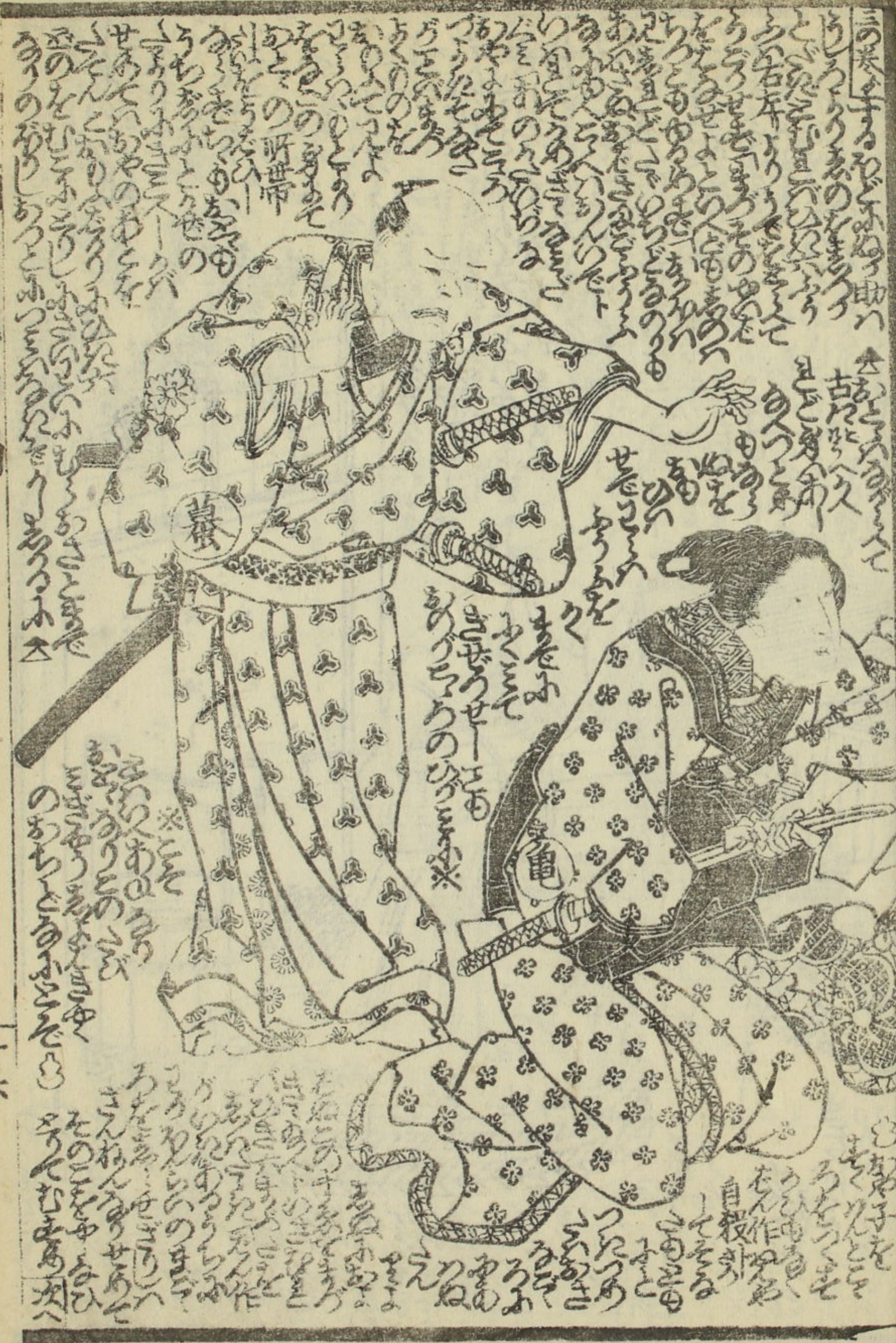
あつたての
あつたての
あつたての

あつたての
あつたての
あつたての

あつたての
あつたての
あつたての

あつたての

あつたての



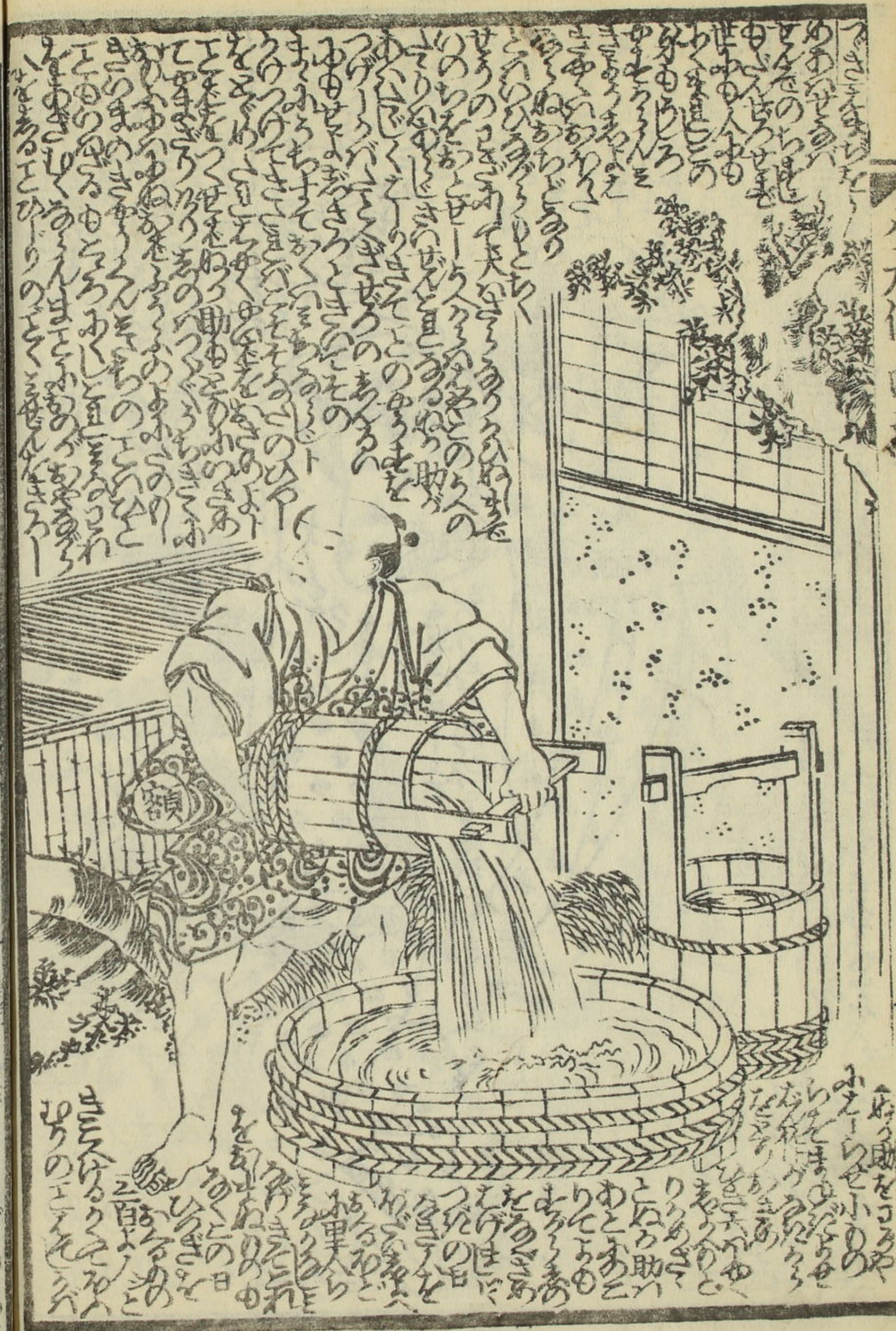
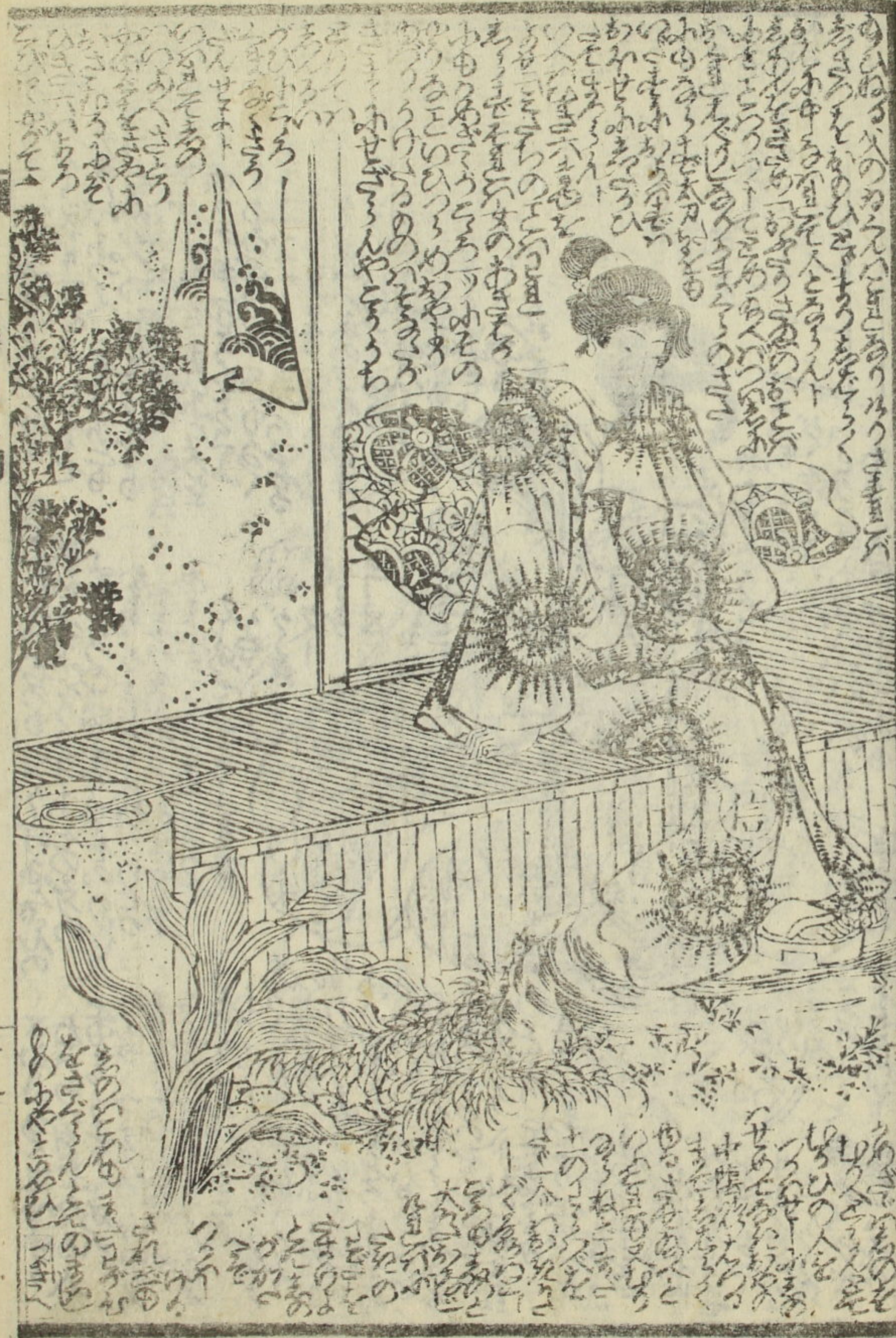
一六

十六



一七

十七

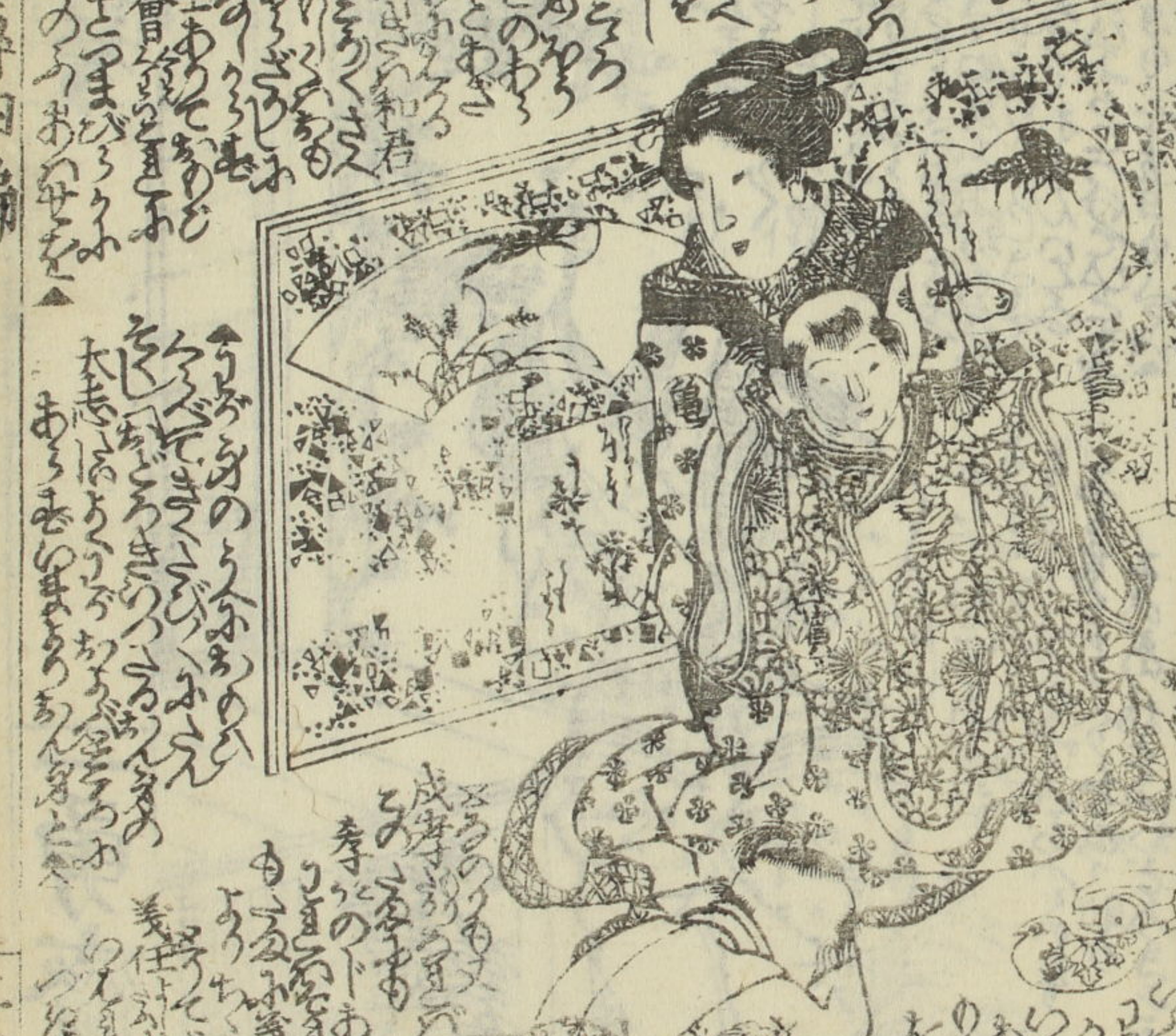


ついでに... 八代傳四條... 此の物語は... 八代傳四條... 此の物語は...



本義を... 八代傳四條... 此の物語は... 八代傳四條... 此の物語は...

ついでに... 八代傳四條... 此の物語は... 八代傳四條... 此の物語は...



本義を... 八代傳四條... 此の物語は... 八代傳四條... 此の物語は...

